



*Strategic  
Business  
Innovator*

# 2007年3月期 SBIグループ 中間決算合同説明会

2006年10月31日

本資料に掲載されている事項は、SBIグループ各社の業績、事業戦略等に関する情報の提供を目的としたものであり、各社の発行する株式その他の有価証券への投資の勧誘を目的としたものではありません。なお、各社は、本資料に含まれた情報の完全性及び事業戦略など将来にかかる部分については保証するものではありません。また、本資料の内容は予告なしに変更又は廃止される場合がありますので、あらかじめご承知おきください。

# 1. 連結決算業績

# 2007年3月期 中間連結決算業績

(単位:百万円)

|         | 2006年3月期<br>中間連結決算 | 2007年3月期<br>中間連結決算 | 前年同期比<br>増減率(%) | 参考<br>前年通期 |
|---------|--------------------|--------------------|-----------------|------------|
| 売 上 高   | 61, 930            | 74, 608            | +20.5           | 137,247    |
| 営 業 利 益 | 19, 664            | 9, 213             | ▲53.1           | 49,595     |
| 経 常 利 益 | 20, 921            | 78, 017            | +272.9          | 51,365     |
| 当期純利益   | 10, 733            | 45, 356            | +322.6          | 45,884     |

# 中間連結決算業績のハイライト(1)

I 当中間期より、会計処理方法を当社監査法人トーマツの指導に基づいて変更し、運営ファンドの時価純資産価額※合計 1,441億円のうち、482億円を連結。

※出資約束金額の未払分を含めない各ファンドの2006年9月末時点の試算数値

- ① アセットマネジメント事業の本源的収益である管理・設立・成功報酬が、営業・経常利益に反映されなくなる。これらの収益は少数株主利益勘定にて調整され、当期純利益には反映される(当期純利益は理論上、従来の会計処理の場合と同額になる)。
- ② 総資産や売上高には外部出資者の持分が含まれることになり、自己資本比率やROA等の指標が従来と異なる前提のもとに算出される。

# 従来方式での中間連結決算比較

(単位:億円)

|         | 2006年3月期<br>中間連結決算 | 2007年3月期<br>中間連結決算<br>(従来方式) | 従来方式の<br>前年同期比<br>増減率(%) | 2007年3月期<br>中間連結決算<br>(ファンド連結後) |
|---------|--------------------|------------------------------|--------------------------|---------------------------------|
| 売 上 高   | 619                | 789                          | +27.5                    | 746                             |
| 営 業 利 益 | 196                | 351                          | +78.5                    | 92                              |
| 経 常 利 益 | 209                | 355                          | +69.7                    | 780                             |
| 税 前 利 益 | 214                | 733                          | +242.3                   | 516                             |
| 当期純利益   | 107                | 396                          | +269.6                   | 453                             |

# 中間連結決算業績のハイライト(2)

- II 当グループのベンチャーキャピタル部門は、運用規模、運用のパフォーマンス、売上高および利益において、名実ともに日本一となった。
- III ネット証券界では個人株式委託売買代金をシェアをさらに伸ばし、本年9月までの過去3四半期で3割以上を取り(24.9%→27.3%→30.7%)、不動の地位を築いた。また、わが国証券業界における地位も向上し、SBI証券との合算で当中間期の営業収益は国内第8位、純利益は同第7位となった。※  
※2006年10月28日付 日経新聞朝刊より当社にて集計。対象は06年3月期営業収益が500億円超の10社とネット専業有力5社。
- IV ファイナンシャル・サービス事業の各公開会社群は増収増益基調をますます強め、未公開会社群も順調に事業を進捗させている。また、ネット銀行、ネット損保、ネット生保も順調に来年度開業に向けて準備を進めている。
- V 当中間期末時点の株主数は前期末時点から26.2%増加し、過去最高の167,478名に達した。機関投資家比率も全体の46.1%まで増加し、うち外国人比率は26.1%となった。

## 2. 主要ビジネスラインの事業概況

## (1) アセットマネジメント事業

2007年3月期 中間期

売上高 365億円(前年同期比 76.1%増)

営業利益 227億円(同 233.1%増)

※ 上記は従来方式(ファンド連結前)のセグメント別の数値で記載しております。

※ 連結消去および全社費用控除前の数字です。



# アセットマネジメント事業のハイライト

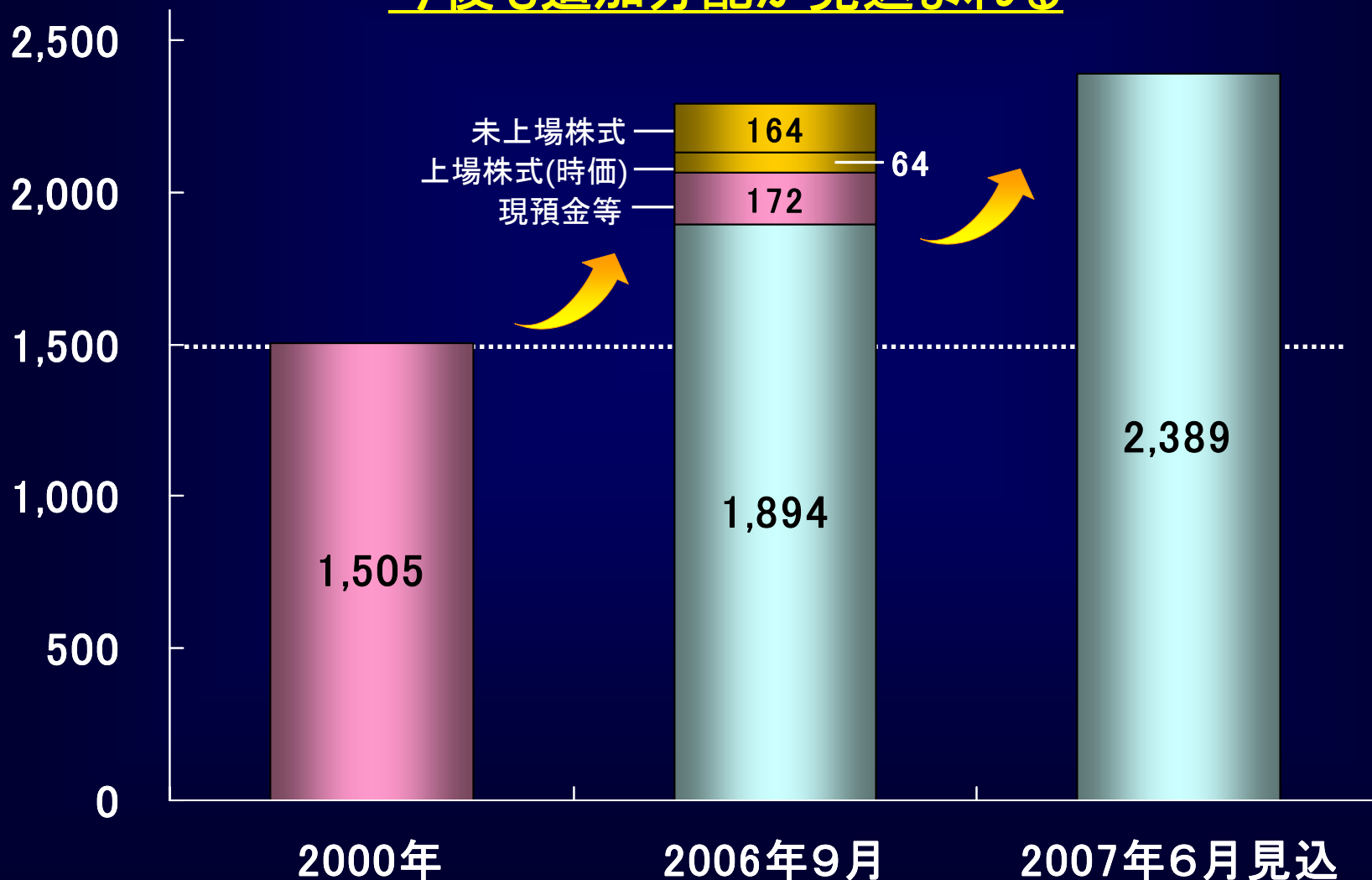
---

- I 旗艦ファンドのITファンドで8月に1,248億円の追加分配を実施。当初出資額1,505億円に対し総分配額は1,894億円に達した。来年6月の最終総分配見込額は2,389億円の予定。
- II 企業再生分野の3ファンドを、7月から8月にかけてクローズ。出資者平均年利回りは22.2%で着地、総分配額は当初出資164億円に対し、平均運用期間4.5年で328億円となった。
- III 上記ファンドの分配・償還と入れ替わりに、引続き新ファンドを積極的に設立。6月末のモバイルファンド(320億円)に続き、9月末にバリューアップファンド231億円の募集を完了。
- IV 国内VC投資にとどまらず、アセットマネジメント事業における新分野が躍進。①好調に推移するミドルリスク・ミドルリターン狙いのメザニンファンド、②本格化するBRICs等プライベートエクイティ投資、③高い利回りが期待できる海外不動産投資。

# ITファンドの償還見込額

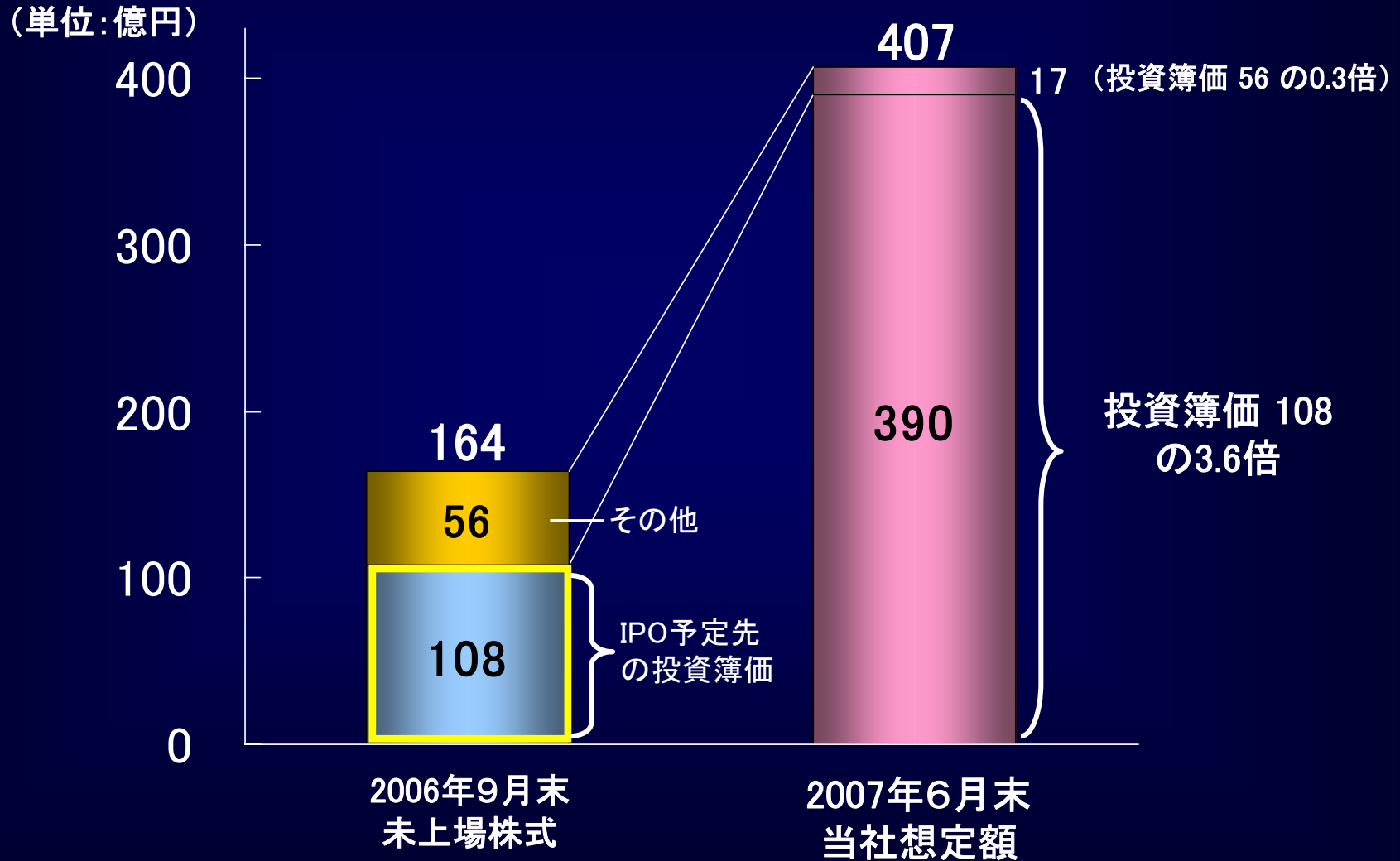
すでに当初出資金の1.26倍を投資家へ分配  
今後も追加分配が見込まれる

(単位: 億円)



# IPO予定先のパフォーマンス(ITファンド)

## 更なる投資実現益の積み上げが想定される



# 当中間期に償還したファンドのトラック・レコード

## 2006年4月～9月償還分

(単位: 億円、%)

|                            | 当初<br>出資額 | 投資家<br>分配額① | 成功報酬<br>受領額② | 設立管理<br>報酬③ | ①～③<br>合計 | ネット※1<br>IRR |
|----------------------------|-----------|-------------|--------------|-------------|-----------|--------------|
| LBOファンド1号<br>(2001年5月設立)   | 50.0      | 109.3       | 15.0         | 8.7         | 133.0     | 18.3         |
| 企業再生ファンド一号<br>(2002年2月設立)  | 104.0     | 199.6       | 24.6         | 12.7        | 236.8     | 25.7         |
| VR企業再生ファンド<br>(2002年10月設立) | 10.0      | 19.3        | 2.4          | 1.1         | 22.7      | 27.7         |
| 合 計                        | 164.0     | 328.2       | 42.0         | 22.3        | 392.5     | ※2<br>22.2   |

いずれのファンドも良好な運用で予定より早く収益が実現し、当初期限を繰り上げて早期償還を行いました。

※1 ネットIRRは、投資家の投資元本およびファンド営業者への各報酬控除後の投資家分配金から算出した年換算運用利回りです。

※2 各ファンドを合算して算出したネットIRRの平均的な数値です。

# 主要VCのトラックレコード比較

## 主要VC各社の2000年以降に償還したファンド

(単位: %)

### SBI

| ファンド名        | IRR   |
|--------------|-------|
| ソフトベン2号      | 20. 4 |
| ソフトバンクベンチャーズ | 20. 5 |
| LBOファンド1号    | 18. 3 |
| 企業再生ファンド一号   | 25. 7 |
| VR企業再生ファンド   | 27. 7 |
| IRR平均値       | 22. 5 |

| (参考)          | 基準価格    |
|---------------|---------|
| 未公開株組入ファンド I  | 21,742円 |
| 運用期間平均利回り     | 14. 7%  |
| 未公開株組入ファンド II | 19,660円 |
| 運用期間平均利回り     | 16. 7%  |

### JAFECO

| ファンド名           | IRR  |
|-----------------|------|
| JAFECO No.6     | —    |
| JAFECO G-3      | —    |
| JAFECO G-4      | —    |
| JAFECO R1(A)(B) | 1. 2 |
| JAVP2           | 3. 1 |
| JAFECO G-5      | 4. 2 |
| JAFECO R2       | 4. 4 |
| IRR平均値          | 3. 2 |

### NIF SMBC

| ファンド名          | IRR  |
|----------------|------|
| NIFグローバルベンチャーズ | 4. 1 |
| NIF7号          | 1. 1 |
| NIF8号          | 3. 4 |
| NIF9号          | 0. 5 |
| NIF10-A        | 3. 0 |
| NIF10-B        | 3. 0 |
| ML-NIF1        | 5. 4 |
| NIF11号         | 1. 9 |
| IRR平均値         | 2. 8 |

※1 各社のIR資料をもとに作成。IRRの数値につきましては各社のIR資料からそのまま転記しております。

※2 IRR平均値は各ファンドのIRRの単純平均です。ただし、JAFECOのファンドの内、プラスのIRRが記載されていない3ファンドについては平均の計算から除外しております。

# バリューアップファンドの募集完了

〔2006年7月～8月〕

企業再生ファンド3ファンドの早期償還実施

(LBOファンド1号・企業再生ファンド一号・VR企業再生ファンド-当初出資金合計164億円)



企業再生ファンドでの良好なトラック・レコードを背景に、当初予定の200億円を上回る**231億円**の募集を9月末に完了。

従来の未公開会社への「再生投資」「バイアウト投資」に加えて公開企業にも対象を拡げ、その上場を維持した状態で企業価値の向上を目指した投資も行う。

**第1号案件 フードエックス・グローブ(株) “タリーズコーヒー”**

取得方法：第三者割当増資および株式譲受

持株比率：28.96%

2003年10月にMBOによる非上場化を実施。

過半数を取得した(株)伊藤園とも協調し、再上場に向け企業価値の最大化を目指す。



# SBIのメザニンファンド事業

最近注目されてきたメザニン・ファイナンスにおいて、既にSBIキャピタルソリューションズは多大な実績をあげている。

ローン

コーポレート・ローン

普通社債

DIPファイナンス

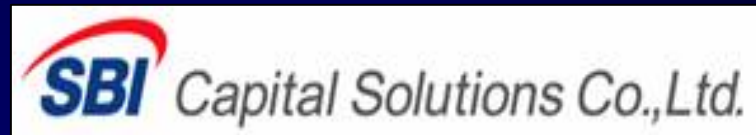
優先株

新株予約権付社債

ハイ・イールド債

普通株式

エクイティ



## 2006年9月末現在の運営状況

### 運用総額 110億円

SBIメザニンファンド1号(2004年8月設立)

SBIメザニンファンド2号(2005年4月設立)

首都圏企業再生ファンド(2006年3月設立)

※首都圏企業再生ファンドは東京都の新銀行東京との共同ファンド

### 運用実績73件 173億円

### 運用利回り 16.0%

※2006年4月から9月までの投資残高に対する年換算利回り

# アセットマネジメント事業の全体

## プライベート・エクイティ 合計3, 933億円

### 〔IT・バイオ関連〕

|              |        |
|--------------|--------|
| インターネット      | 1, 908 |
| ブロードバンド・メディア | 691    |
| モバイル         | 311    |
| バイオ・その他      | 131    |

|        |     |
|--------|-----|
| 〔直接投資〕 | 280 |
|--------|-----|

### 〔バイアウト・メザニン〕

|          |     |
|----------|-----|
| バリュースアップ | 231 |
| メザニン     | 112 |

### 〔海外〕

|         |     |
|---------|-----|
| 中国・香港   | 150 |
| インド(予定) | 120 |

## 投資信託等合計1, 060億円

### 〔投資信託等〕

|      |     |
|------|-----|
| 投資信託 | 805 |
| 投資顧問 | 212 |
| 投資法人 | 43  |

## 不動産合計488億円

### 〔不動産等〕

|      |     |
|------|-----|
| 開発物件 | 154 |
| 稼働物件 | 334 |

## アセットマネジメント事業合計5, 481億円

※ 不動産は投資総額、投資信託・投資顧問等は2006年9月末の時価純資産、その他のファンドは2006年9月時点の各ファンドの直近決算に基づく時価純資産で記載しております。



# 投資先IPO・M&A実績

|           | 事業開始から<br>2006年3月期まで | 2007年3月期<br>(予定) | 2008年3月期<br>(予定) |
|-----------|----------------------|------------------|------------------|
| IPO・M&A社数 | 89社                  | 17社              | 21社              |

2007年3月期は現在まで以下の6社が新規公開しております。

- ・ 2006年 4月 6日 (株)ゴルフ・ドウ
- ・ 2006年 5月31日 SBIフューチャーズ(株)
- ・ 2006年 8月16日 ゴメス・コンサルティング(株)
- ・ 2006年 8月22日 メディカル・ケア・サービス(株)
- ・ 2006年 9月 7日 China Printing & Dyeing Holding Limited(シンガポール証券取引所)
- ・ 2006年10月26日 (株)オプトロム

※ IPO予定社数には、毎週開催しております「案件会議」での検討に基づき、投資先5段階評価において最上位に区分されたものが含まれておりますが、これら投資先の評価およびIPO予定の見通しは当社独自判断に基づいたものであり、今後のIPOを保証するものではありません。尚、過去実績のIPO・M&A社数はすでに売却済みのものを含みます。

## (2)証券関連事業

2007年3月期 中間期

売上高 329億円(前年同期比 0.7%減)

営業利益 122億円(同 2.9%減)

※ 上記は従来方式(ファンド連結前)のセグメント別の数値で記載しております。

※ 連結消去および全社費用控除前の数字です。

# 証券関連事業のハイライト

I SBIイー・トレード証券は、中間連結営業収益285億円、連結経常利益124億円となり、極めて厳しい株式市場環境下にも関わらず前年同期比増収増益を達成した

① シェアを一層高め、ネット証券業界の競争に決着をつけつつある

- ・ 2006年9月末 総口座数131万口座、預かり資産3兆8,284億円の圧倒的顧客基盤を背景に、個人売買代金シェアは第1四半期27.3%から、第2四半期30.7%へと大きく上昇した

② 1約定あたり変動費の削減と収益源の多様化を進展させる

- ・ 第2四半期の1約定あたり変動費は、2006年3月期中間期比約30%削減
- ・ 金融収支は前年同期比85.6%増、中間期で過去最高の64億円へと大幅に拡大
- ・ IPO引受では、55社を中間期に引受け、全証券会社中第1位となる債券販売も順調に推移

II 対面型証券会社であるSBI証券は、厳しい相場環境により前年同期比減益となったが、不動産ファンドの媒介や金融収支の向上により収益源の多様化を進捗させた

# SBIイー・トレード証券中間期 連結業績

(単位:百万円、%)

|       | 2006年3月期 中間期<br>(2005年4月～2005年9月) | 2007年3月期 中間期<br>(2006年4月～2006年9月) | 前年同期比<br>増減率 |
|-------|-----------------------------------|-----------------------------------|--------------|
| 営業収益  | 24,095                            | 28,574                            | +18.6        |
| 純営業収益 | 21,984                            | 26,792                            | +21.9        |
| 営業利益  | 10,798                            | 12,212                            | +13.1        |
| 経常利益  | 10,946                            | 12,468                            | +13.9        |
| 中間純利益 | 6,062                             | 6,972                             | +15.0        |

# SBI証券・SBIフューチャーズ中間期業績

(単位:百万円、%)

|                           | 営業収益<br>(前年同期比)  | 営業利益<br>(前年同期比) | 経常利益<br>(前年同期比) | 当期純利益<br>(前年同期比) |
|---------------------------|------------------|-----------------|-----------------|------------------|
| SBI証券<br>2007年3月期中間期      | 3,890<br>(△25.7) | 184<br>(△87.2)  | 833<br>(△45.7)  | 319<br>(△84.7)   |
| SBIフューチャーズ<br>2007年3月期中間期 | 541<br>(△19.7)   | ▲101<br>(－)     | ▲129<br>(－)     | ▲78<br>(－)       |

# 主要証券におけるポジショニング(連結業績)

## 営業収益ランキング (2006年9月中間期)

(単位:億円)

|    |                    |       |
|----|--------------------|-------|
| 1  | 野村 ※1              | 8,709 |
| 2  | 大和                 | 4,193 |
| 3  | みずほ                | 2,768 |
| 4  | 日興コーディアル           | 2,276 |
| 5  | 三菱UFJ              | 1,792 |
| 6  | 新光                 | 660   |
| 7  | みずほインベ             | 327   |
| 8  | SBIイー・トレード<br>+SBI | 323   |
| 9  | 岡三                 | 306   |
| 10 | 東海東京               | 285   |
| 11 | SMBCフレンド           | 269   |
| 12 | 松井                 | 216   |
| 13 | 楽天                 | 179   |
| 14 | マネックス              | 168   |
| 15 | カブコム ※2            | 108   |

## 純利益ランキング (2006年9月中間期)

(単位:億円)

|    |                    |     |
|----|--------------------|-----|
| 1  | 野村 ※1              | 636 |
| 2  | 大和                 | 401 |
| 3  | 日興コーディアル           | 227 |
| 4  | 三菱UFJ              | 182 |
| 5  | みずほ                | 110 |
| 6  | 新光                 | 76  |
| 7  | SBIイー・トレード<br>+SBI | 72  |
| 8  | 松井                 | 65  |
| 9  | マネックス              | 49  |
| 10 | SMBCフレンド           | 48  |
| 11 | みずほインベ             | 44  |
| 12 | 東海東京               | 42  |
| 13 | 楽天                 | 38  |
| 14 | カブドットコム            | 34  |
| 15 | 岡三                 | 14  |

(出所:2006年10月28日 日本経済新聞朝刊より当社にて集計)

※1 野村は米国会計基準、カブコムは単独

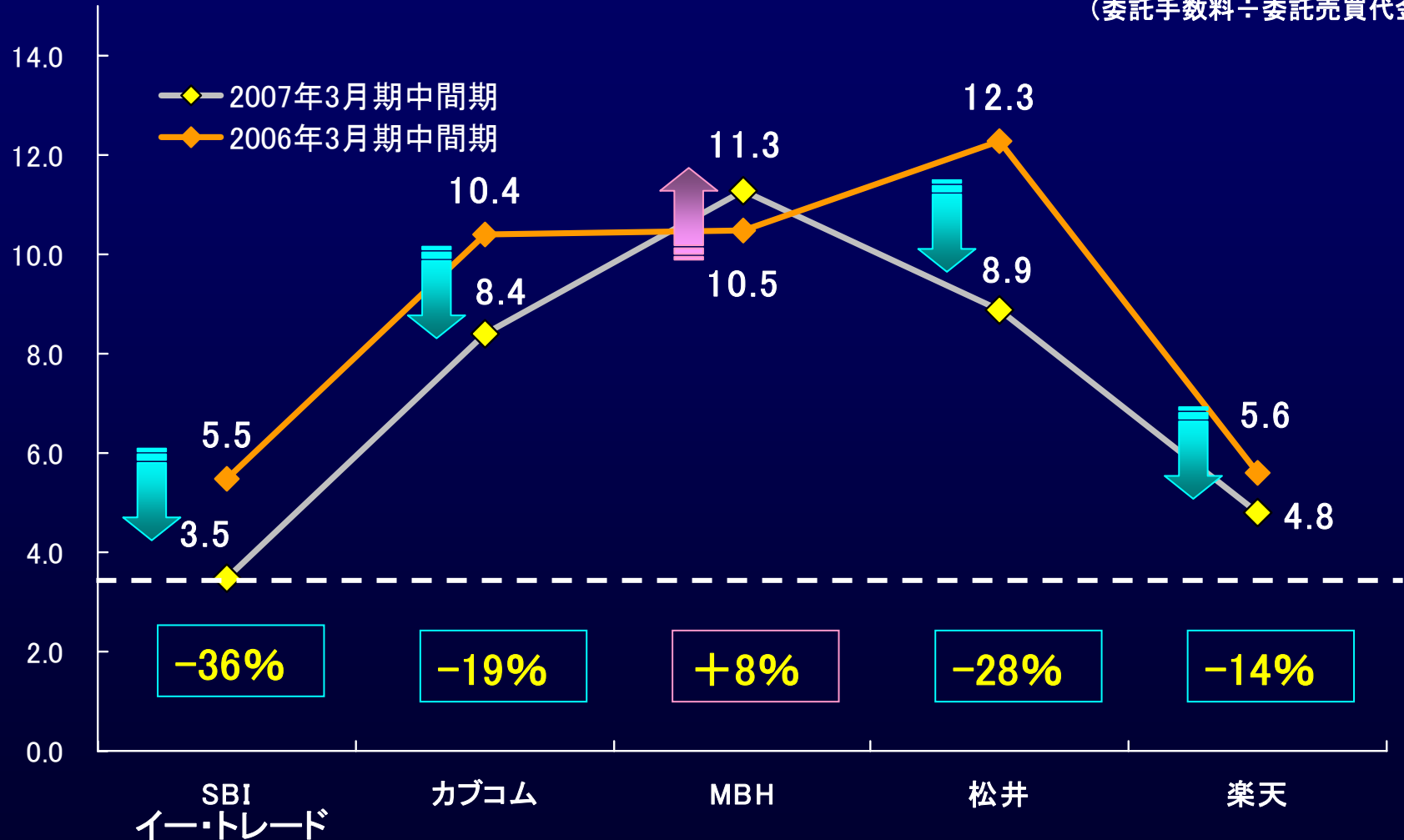
※2 主要証券とは、06年3月期営業収益が500億円を上回る10社とネット専業の有力5社

# 主要オンライン証券のベースス比較

## 主要オンライン証券5社のベースス比較

(委託手数料÷委託売買代金)

(ベースス)



# オンライン証券及び既存大手証券の経常利益比較

オンライン証券、中でもSBIイー・トレード証券は、手数料引き下げにより  
最もベーススを下げたにも関わらず健闘

(単位:百万円)

| (単体)       | 2005年中間期 | 2006年中間期 | 前年同期比(%) |
|------------|----------|----------|----------|
| SBIイー・トレード | 10,710   | 11,761   | +9.8     |
| 松井証券       | 14,022   | 11,202   | △20.1    |
| マネックス証券    | 8,178    | 9,067    | +10.9    |
| 楽天証券       | 4,992    | 5,186    | +3.9     |
| カブドットコム    | 4,503    | 6,079    | +35.0    |

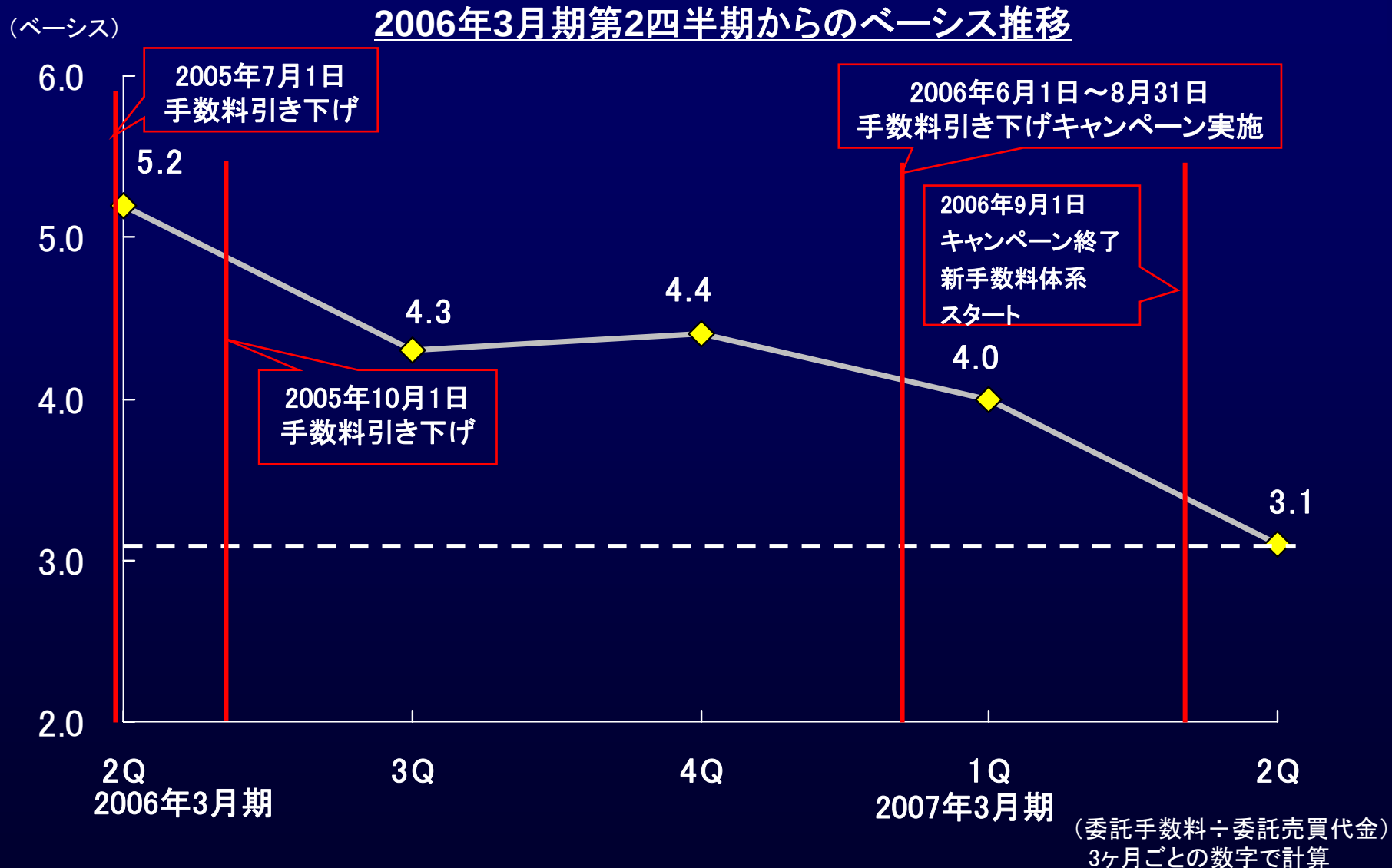
| (連結)                       | 2005年中間期 | 2006年中間期 | 前年同期比(%) |
|----------------------------|----------|----------|----------|
| 野村ホールディングス <sup>(※1)</sup> | 141,368  | 106,491  | △24.7    |
| 大和証券グループ                   | 83,956   | 86,451   | +3.0     |
| 日興コーディアルグループ               | 55,619   | 38,542   | △30.7    |

※1 野村ホールディングスは米国会計基準につき、継続事業からの税引き前中間純利益を用いております

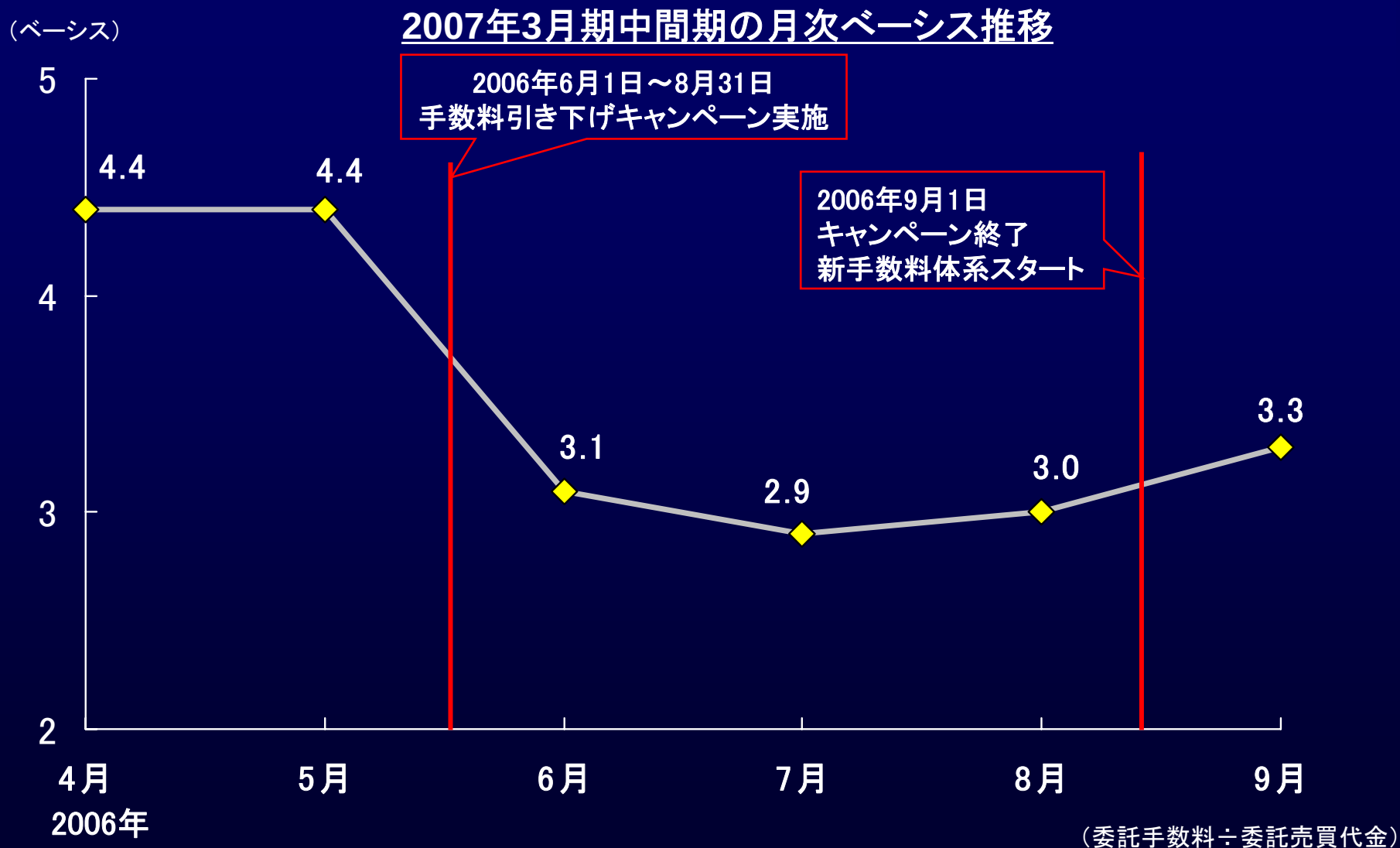
※2 カブドットコム証券は2006年1月1日にMeネット証券と合併



# SBIイー・トレード証券のベースス推移(四半期)

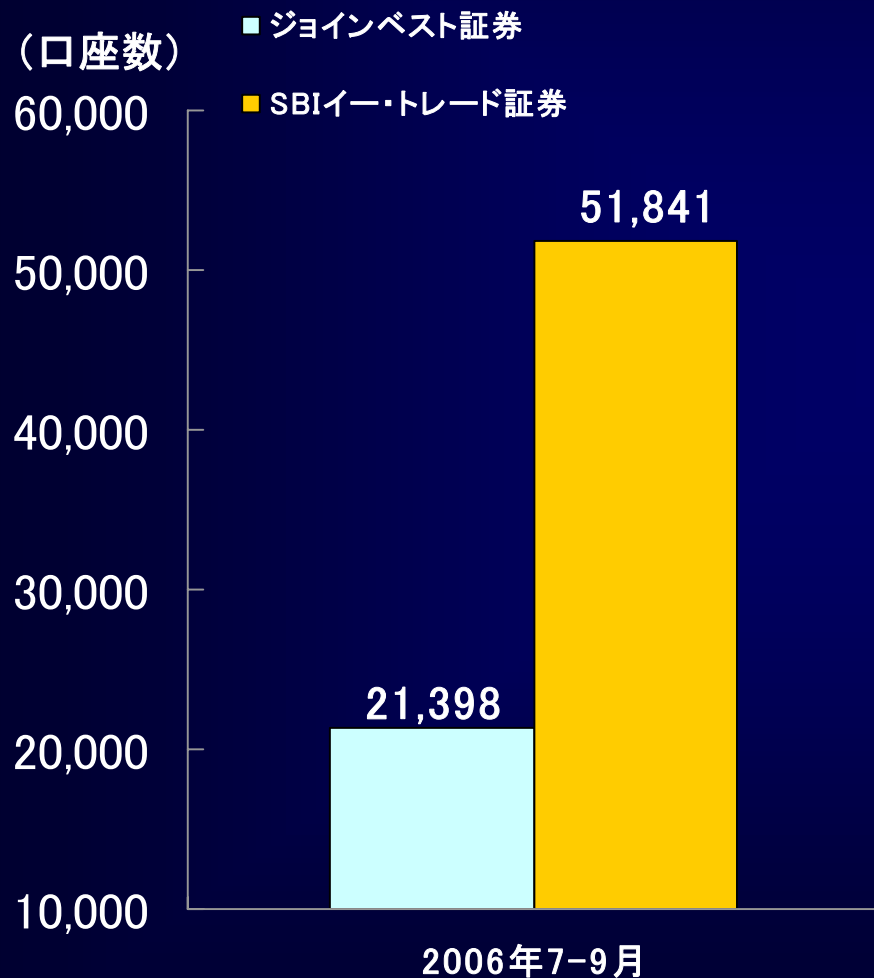


# SBIイー・トレード証券のベースス推移(月次)

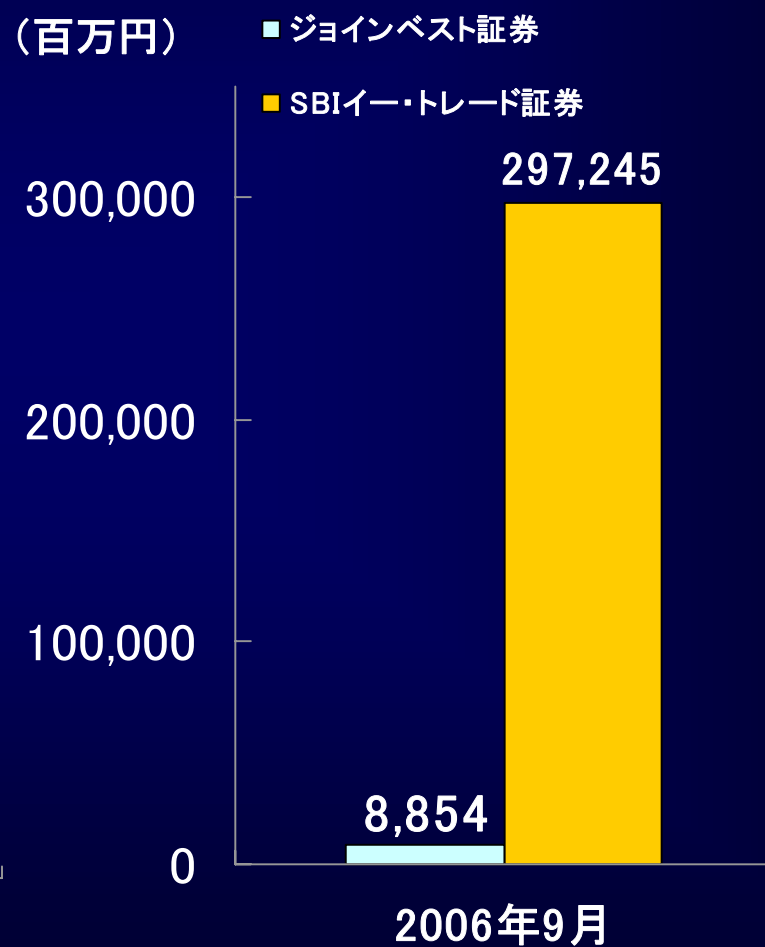


# ジョインベスト証券との獲得口座・売買代金比較

2006年7月-9月の獲得口座数

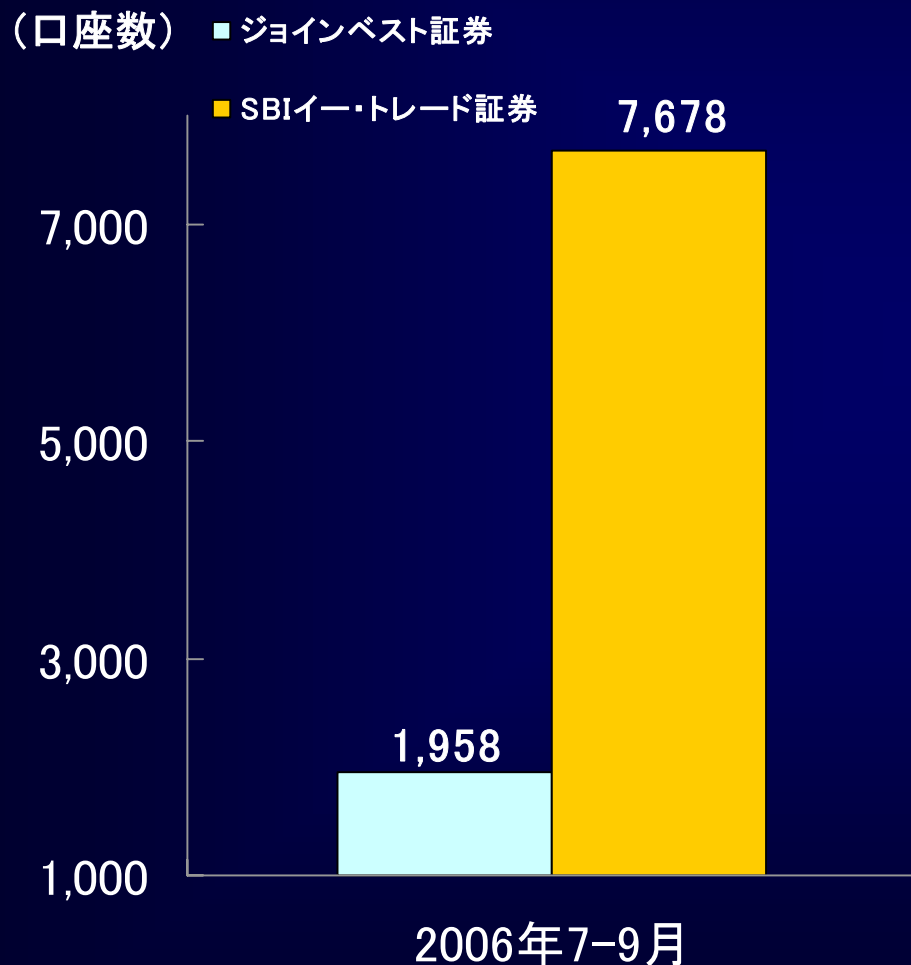


2006年9月の1日当たり株式委託売買代金

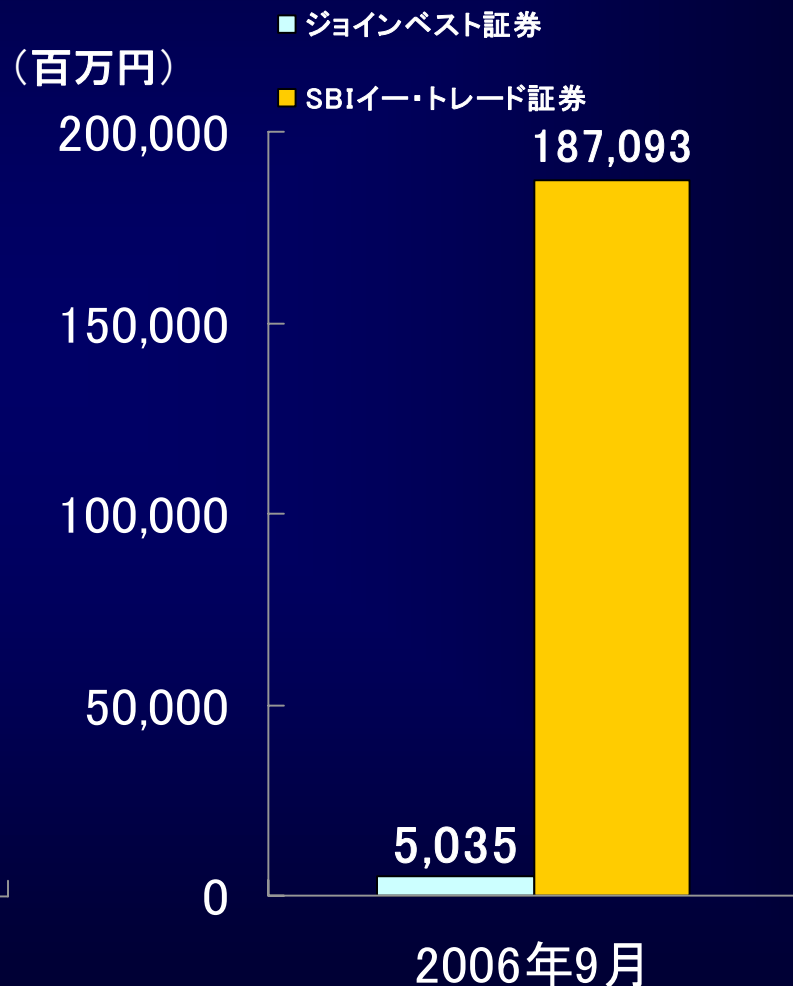


# ジョインベスト証券との信用取引獲得口座・売買代金比較

2006年7月-9月の獲得信用口座数

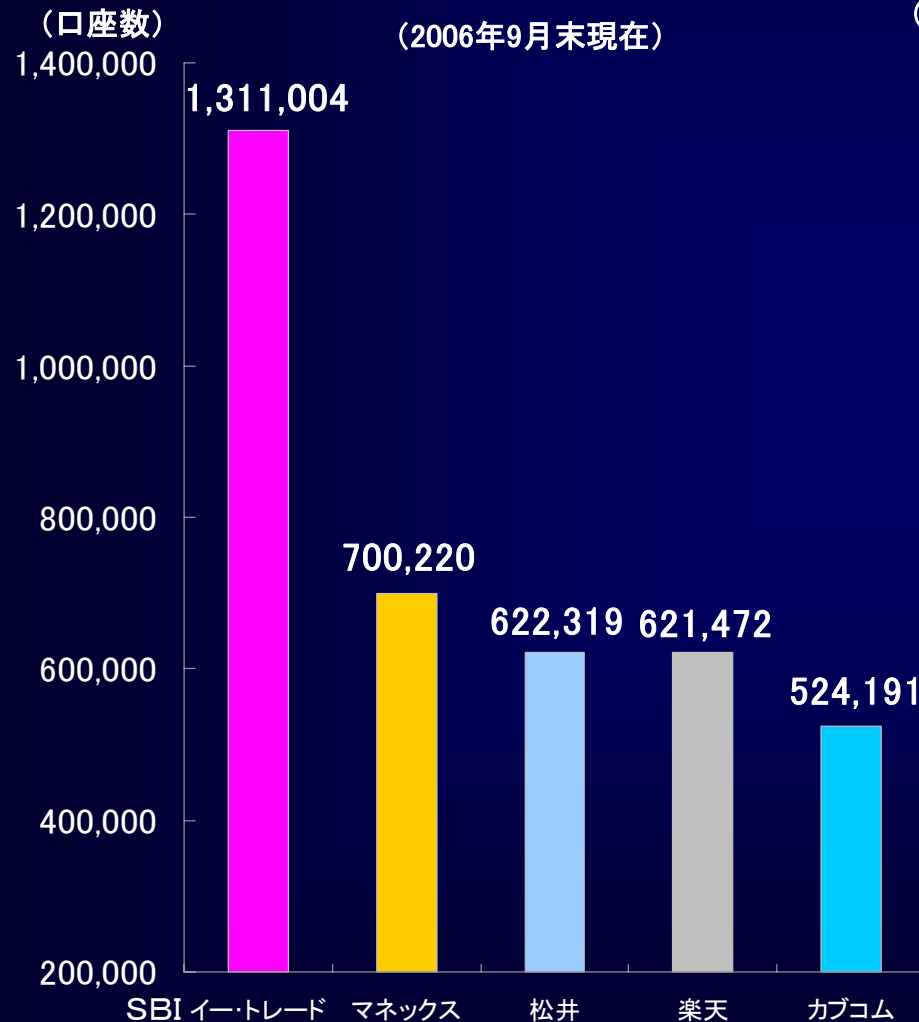


2006年9月の信用取引  
1日当たり株式委託売買代金

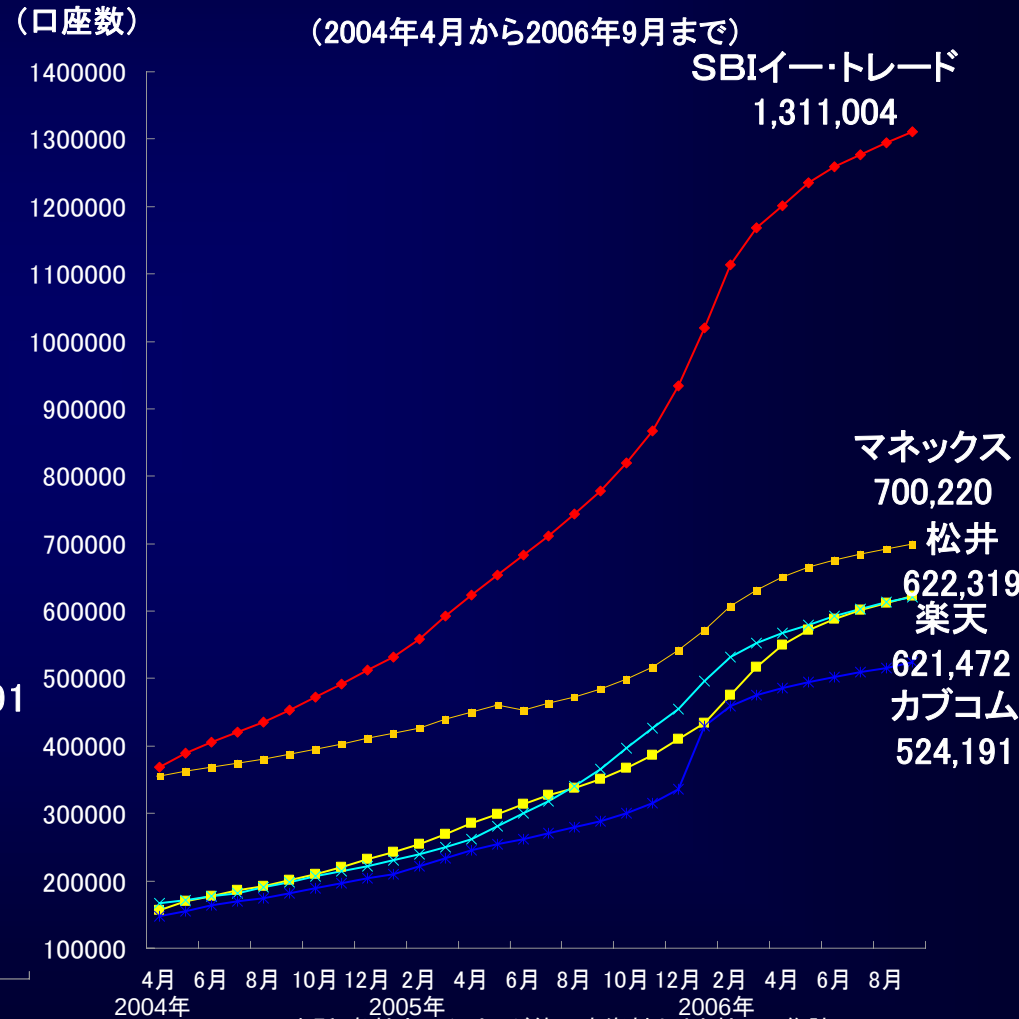


# 主要オンライン証券の口座数比較

## 主要オンライン証券5社の口座数



## 主要オンライン証券5社の口座数推移

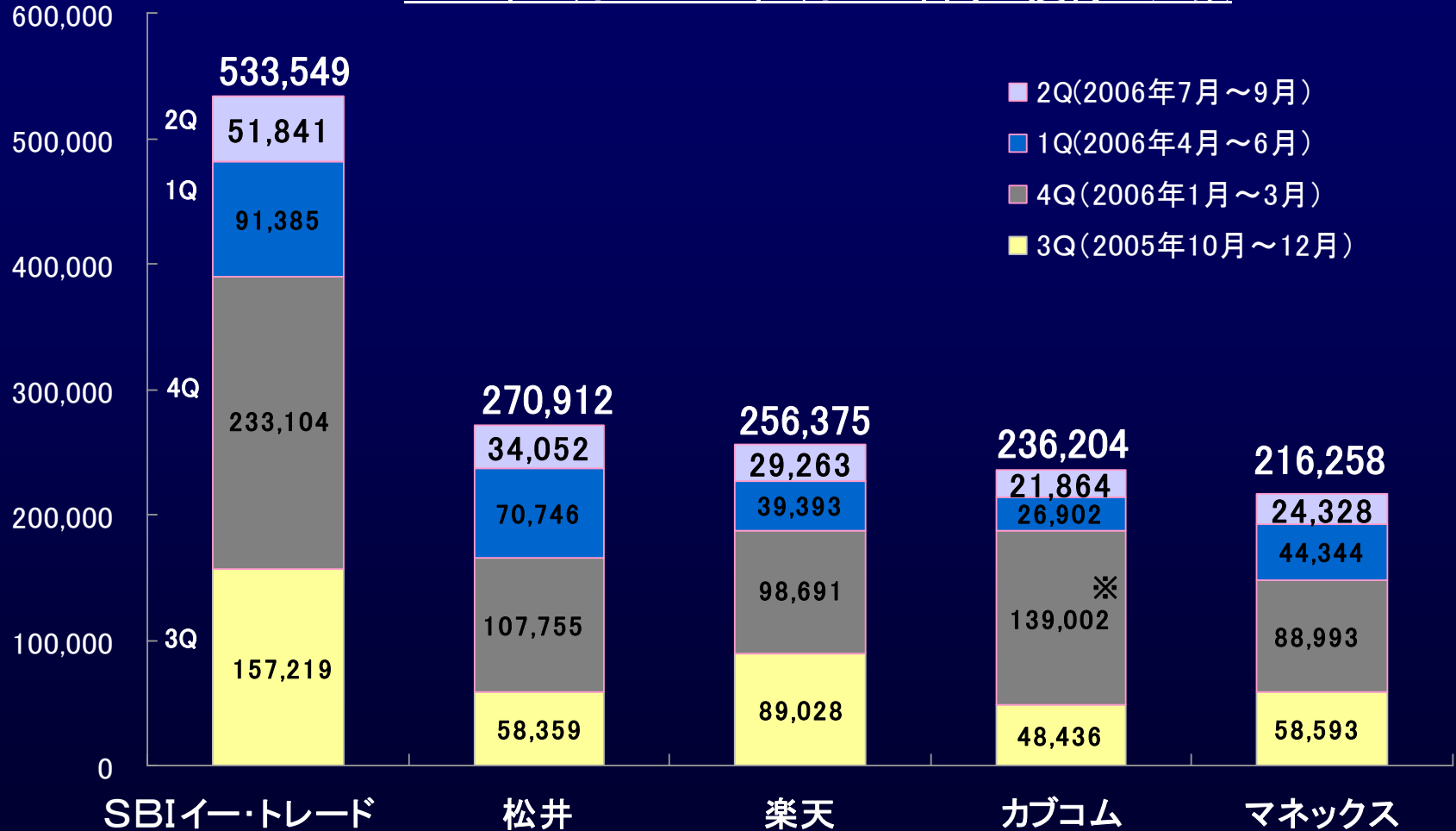


出所: 各社ホームページ等公表資料より当社にて集計  
※ マネックス証券、日興ビーンズ証券はマネックスとして合算。  
カブドットコム証券は2006年1月1日にMeネット証券と合併

# 主要オンライン証券の獲得口座数比較

(獲得口座数)

2005年10月～2006年9月の1年間の獲得口座数



出所: 各社ホームページ等公表資料より当社集計

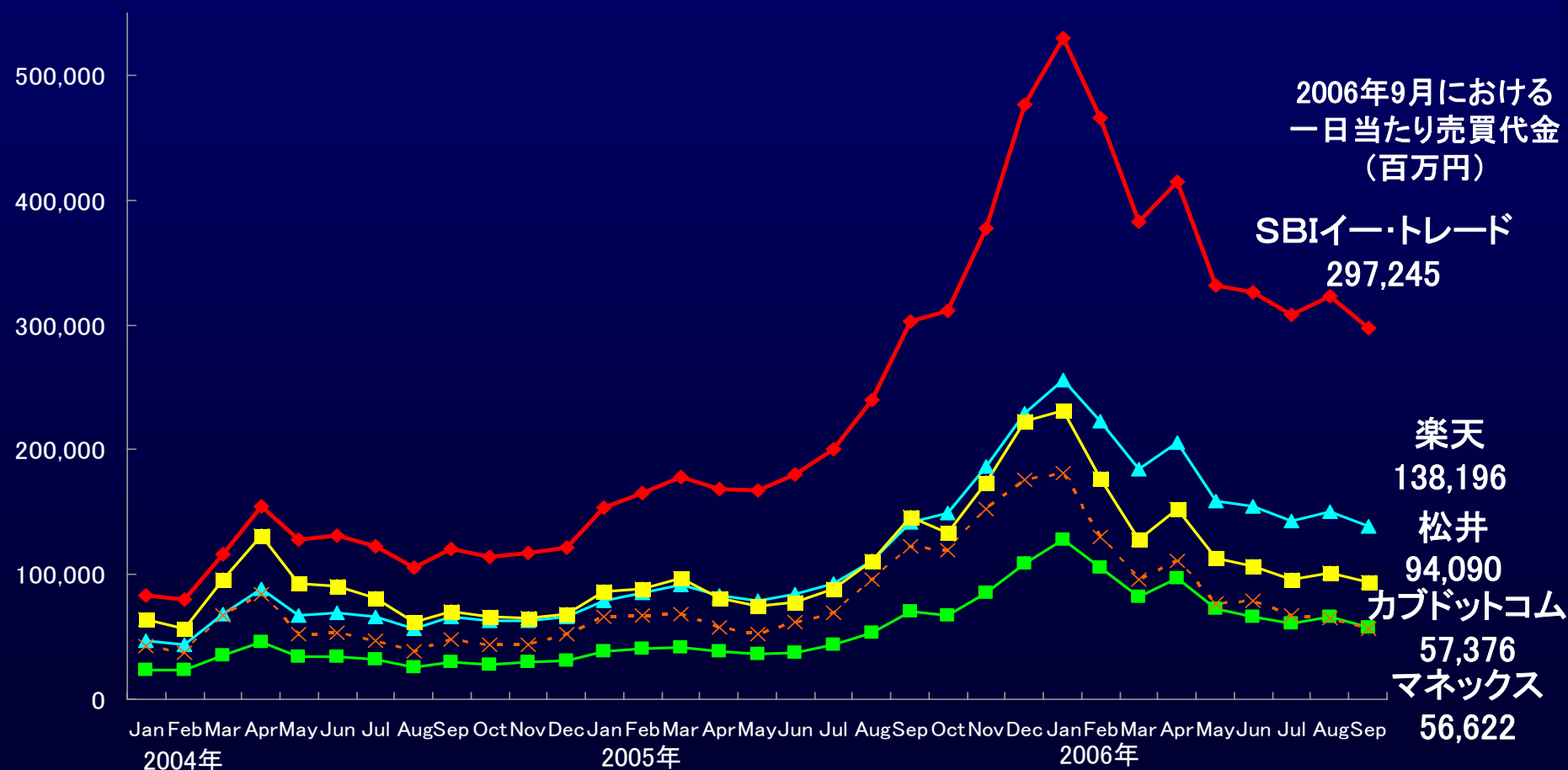
※カブドットコム証券は2006年1月にMeネット証券と合併

# 主要オンライン証券の株式委託売買代金推移

## 主要オンライン証券5社の1日当たり平均売買代金の推移

(2004年1月から2006年9月まで)

(百万円)

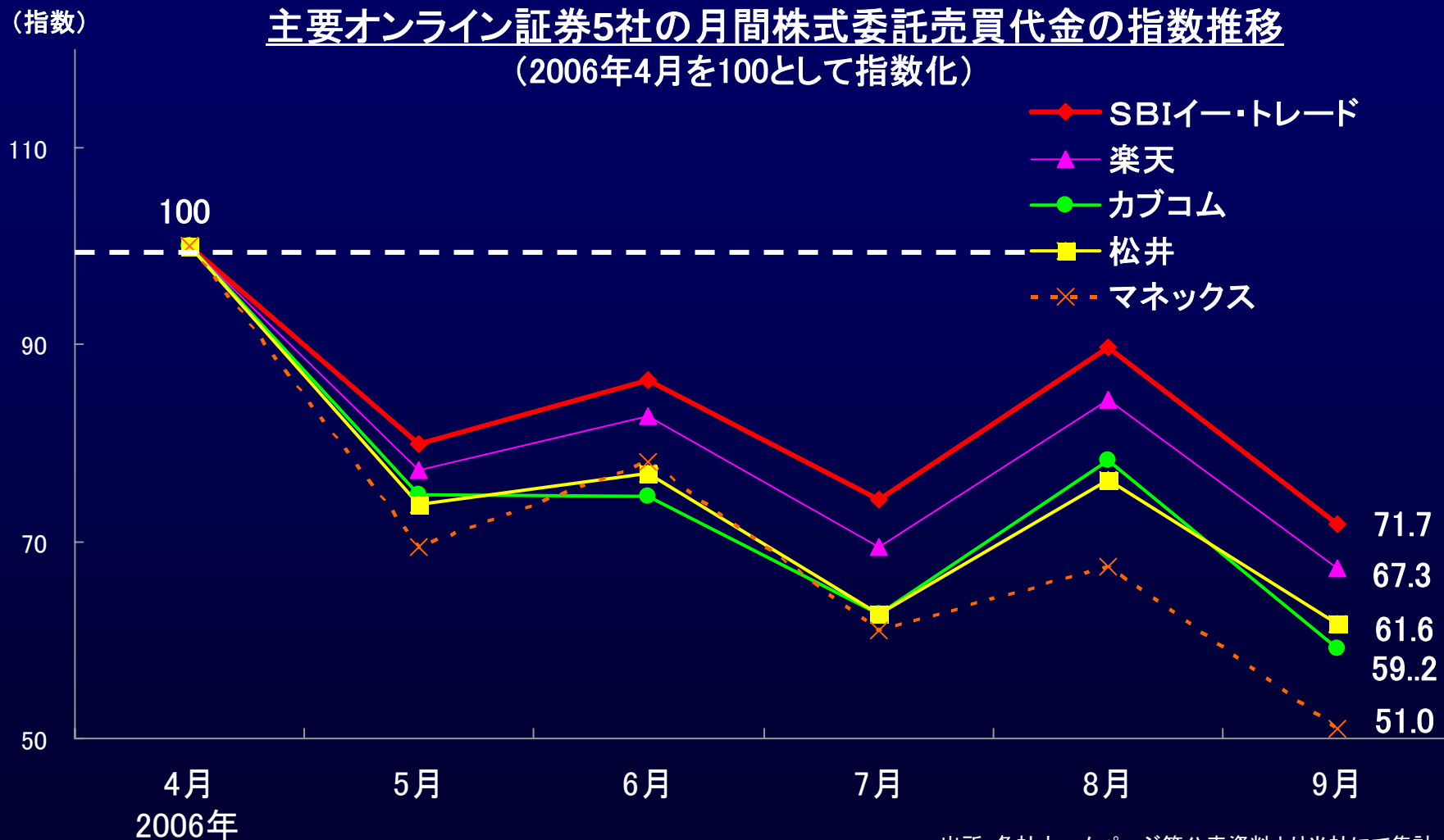


出所: 各社ホームページ等公表資料より当社にて集計

※ マネックス証券、日興ビーンズ証券はマネックスとして合算。

カブドットコム証券は2006年1月にMeネット証券と合併

# 主要オンライン証券の株式委託売買代金推移

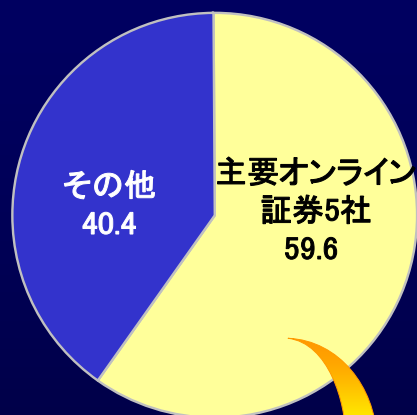




# 主要オンライン証券の個人株式委託売買代金シェア

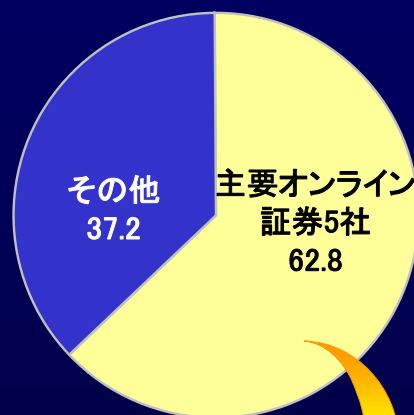
## 個人株式委託売買代金シェアの推移（％）

**2006年3月期 第4四半期**  
(2006年1月～2006年3月)



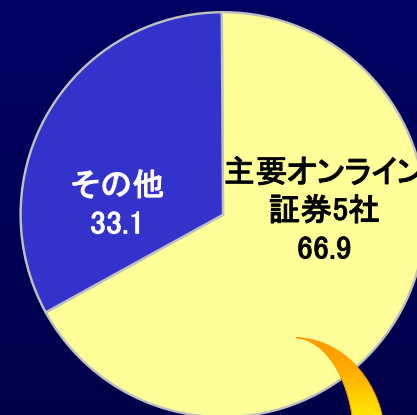
|            |      |
|------------|------|
| SBIイー・トレード | 24.9 |
| 楽天証券       | 12.0 |
| 松井証券       | 9.6  |
| マネックス      | 7.3  |
| カブドットコム    | 5.7  |

**2007年3月期 第1四半期**  
(2006年4月～2006年6月)



|            |      |
|------------|------|
| SBIイー・トレード | 27.3 |
| 楽天証券       | 13.2 |
| 松井証券       | 9.5  |
| マネックス      | 6.8  |
| カブドットコム    | 6.0  |

**2007年3月期 第2四半期**  
(2006年7月～2006年9月)

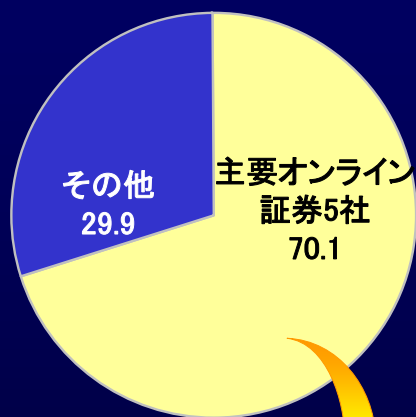


|            |      |
|------------|------|
| SBIイー・トレード | 30.7 |
| 楽天証券       | 14.3 |
| 松井証券       | 9.6  |
| マネックス      | 6.2  |
| カブドットコム    | 6.1  |

# 主要オンライン証券の個人信用取引委託売買代金シェア

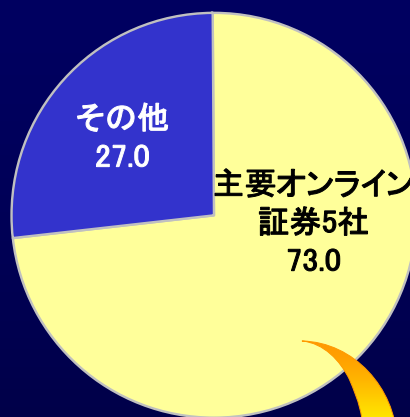
## 個人信用取引売買代金シェアの推移（％）

**2006年3月期 第4四半期**  
(2006年1月～2006年3月)



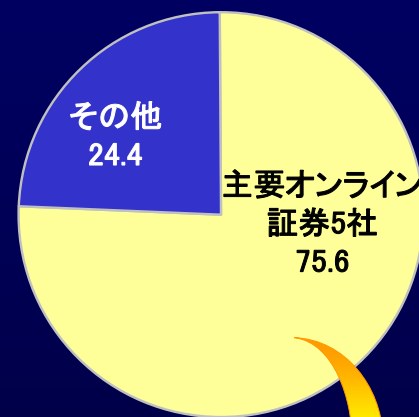
|                   |             |
|-------------------|-------------|
| <b>SBIイー・トレード</b> | <b>29.0</b> |
| 松井証券              | 13.8        |
| 楽天証券              | 13.3        |
| マネックス             | 7.1         |
| カブドットコム           | 6.9         |

**2007年3月期 第1四半期**  
(2006年4月～2006年6月)



|                   |             |
|-------------------|-------------|
| <b>SBIイー・トレード</b> | <b>32.2</b> |
| 楽天証券              | 14.4        |
| 松井証券              | 12.5        |
| カブドットコム           | 7.4         |
| マネックス             | 6.6         |

**2007年3月期 第2四半期**  
(2006年7月～2006年9月)



|                   |             |
|-------------------|-------------|
| <b>SBIイー・トレード</b> | <b>35.8</b> |
| 楽天証券              | 15.1        |
| 松井証券              | 11.7        |
| カブドットコム           | 7.2         |
| マネックス             | 5.8         |

出所：東証統計資料、JASDAQ統計資料、各社ホームページ等公表資料より当社にて集計  
 ※ 個人信用取引売買代金は3市場（1・2部）とJASDAQを合算  
 カブドットコム証券は2006年1月にMeネット証券と合併

# 3大証券会社との株式委託売買代金比較

## 各社の株式委託売買代金の推移

2007年3月期委託シェア(%)

|            | 1Q   | 2Q    |
|------------|------|-------|
| SBIイー・トレード | 9.65 | 10.32 |
| 野村         | 7.25 | 6.66  |

2005年3月期4Qに野村證券を抜く

2007年3月期2Qにおける  
委託シェア

SBIイー・トレード  
19,955(10.32%)

野村 12,878  
(6.66%)

大和SMBC 7,685(3.97%)

日興シティ 6,013(3.11%)

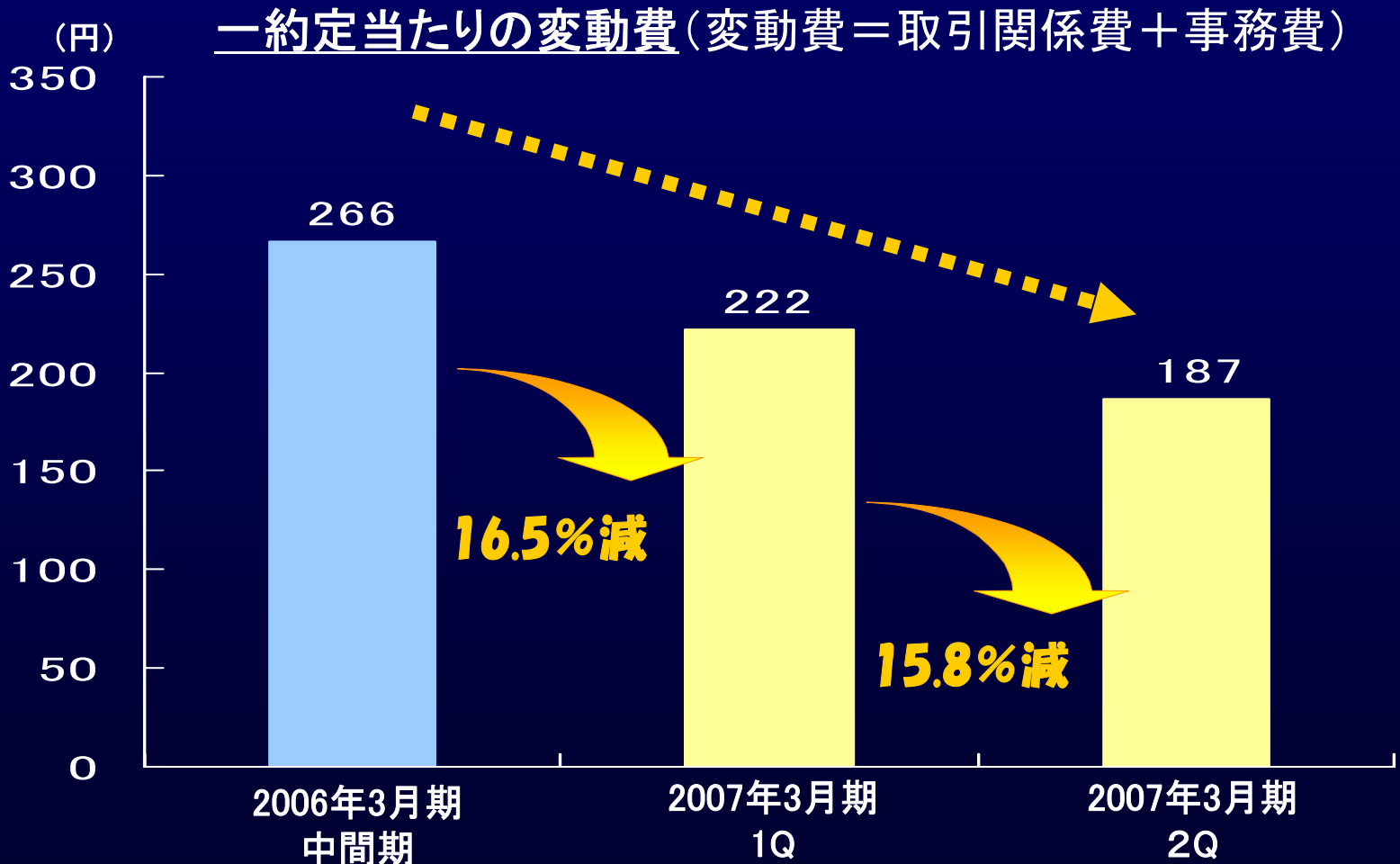
松井 6,118(3.16%)

大和 3,292(1.70%)

日興コーディアル  
1,296(0.67%)

# 変動費の推移

徹底した効率化とボリュームディスカウント等により  
一約定あたり変動費の大幅な削減を実現

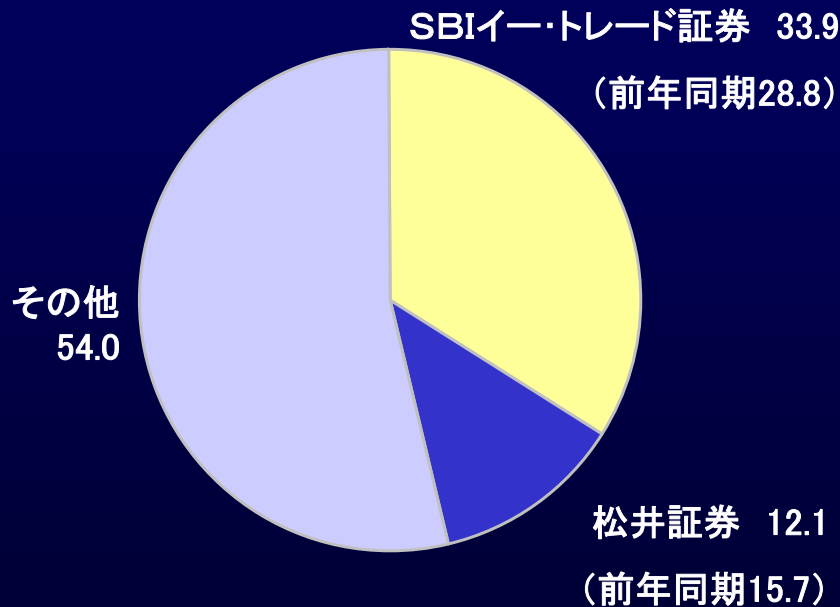


※単体数値にて算出

# 松井証券との信用取引比較

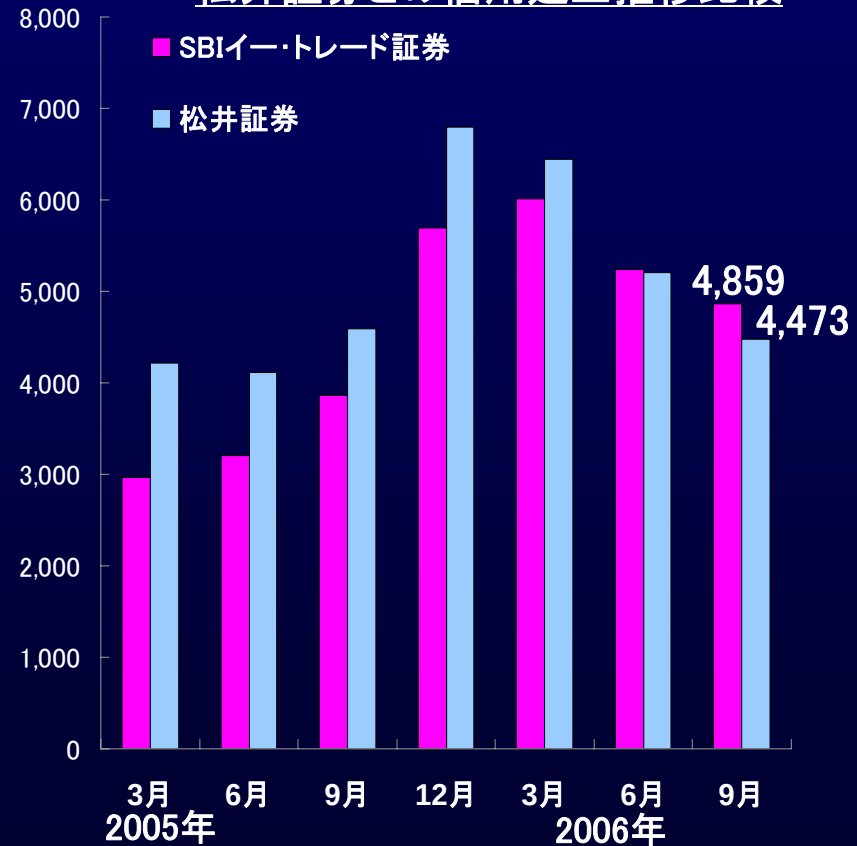
信用建玉は2006年6月に松井証券を初めて上回り、  
9月末には差を386億円に拡大した(約定日ベース)

個人信用取引委託売買代金シェア (%)  
(2006年4月～2006年9月 6ヶ月)



出所: 東証統計資料、JASDAQ統計資料、各社ホームページ等公表資料より当社にて集計  
※ 個人信用取引委託売買代金合計は3市場(1・2部)とJASDAQを合算

(億円) 松井証券との信用建玉推移比較



出所: 各社ホームページ等公表資料より当社にて算出。  
約定日ベースで記載。

# 金融収支の拡大

## SBIイー・トレード証券の中間期の 金融収益・金融収支は過去最高に

### 信用取引貸付金の調達源の多様化

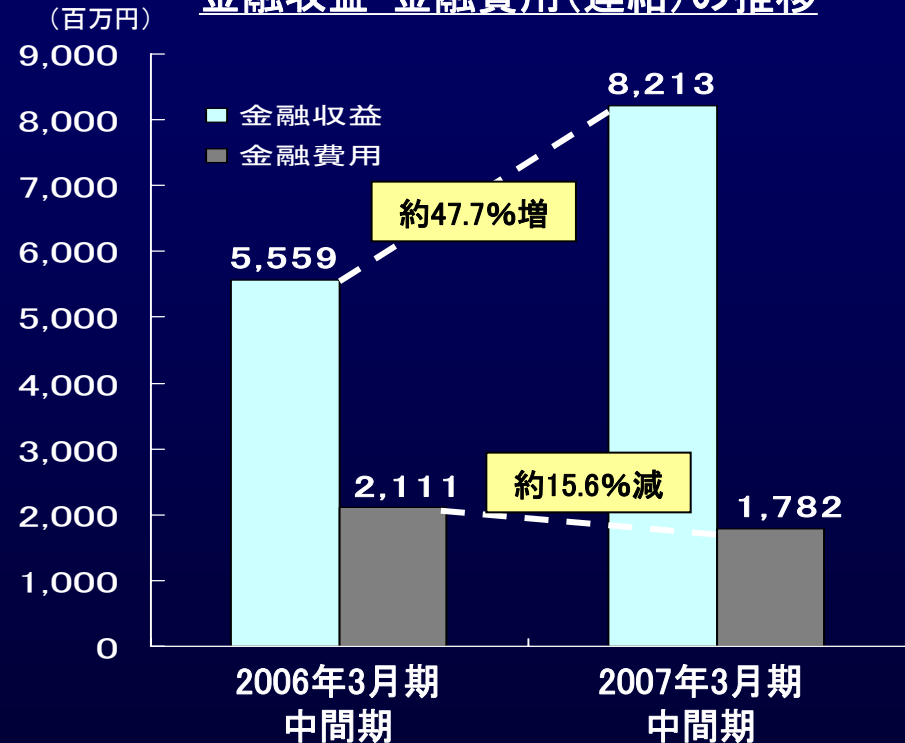
- ・証券金融からの借入れ
- ・普通社債の発行(2006年2月)
- ・シンジケートローンの組成
- ・公募増資の実施(2005年12月)
- ・コール市場からの調達
- ・キャッシュ・マネジメントの強化  
(資金運用の効率化)

↓  
自己融資の拡大

↓  
担保株券の貸し株業務等への活用(新たな収益源の拡大)

今後さらに自己融資の拡大を推進し、収益源の多様化を進める

### 金融収益・金融費用(連結)の推移



# IPO引受実績

SBIイー・トレード証券

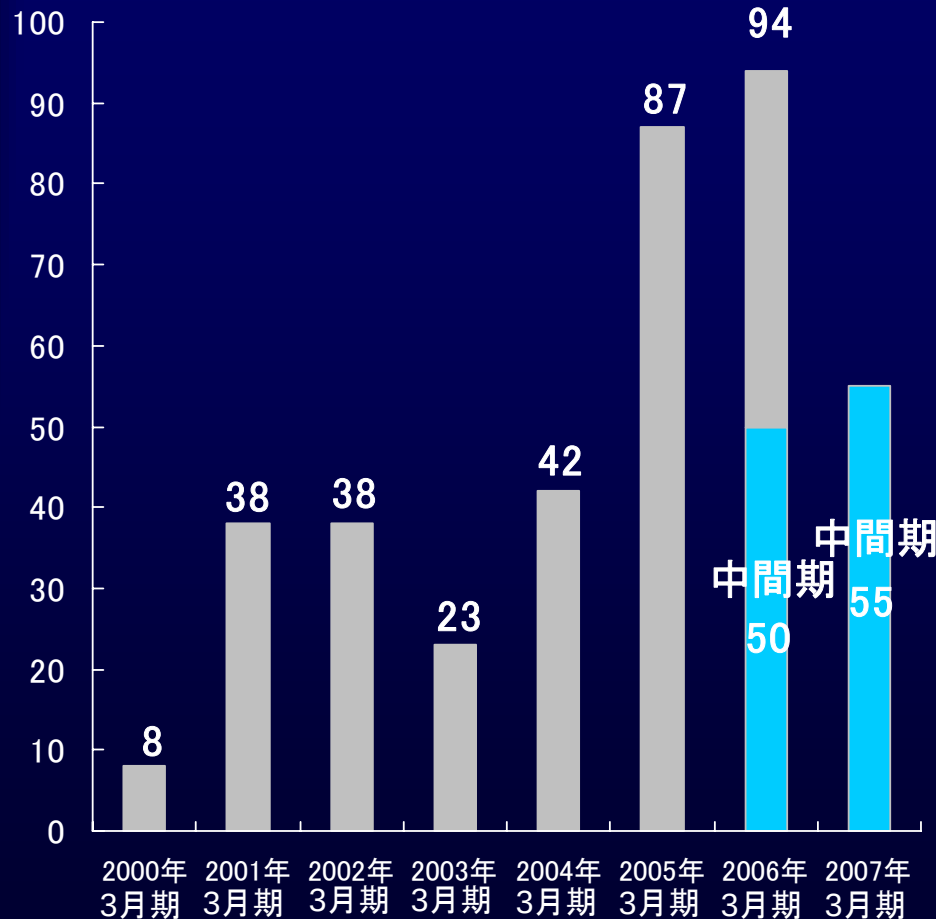
新規公開株式引受実績

IPO引受社数ランキング

(2006年4月～2006年9月)

**全証券会社中第1位**

(引受社数)



※ 上場日ベース、委託販売・不動産投信を除く

| 順位 | 社名           | 引受社数<br>(社) | 関与率<br>(%) |
|----|--------------|-------------|------------|
| 1  | SBIイー・トレード証券 | 55          | 66.3       |
| 2  | 三菱UFJ証券      | 54          | 65.1       |
| 3  | マネックス証券      | 44          | 53.0       |
| 4  | 新光証券         | 43          | 51.8       |
| 5  | 野村證券         | 37          | 44.6       |
| 6  | 大和証券SMBC     | 37          | 44.6       |
| 7  | 日興シティグループ    | 37          | 44.6       |

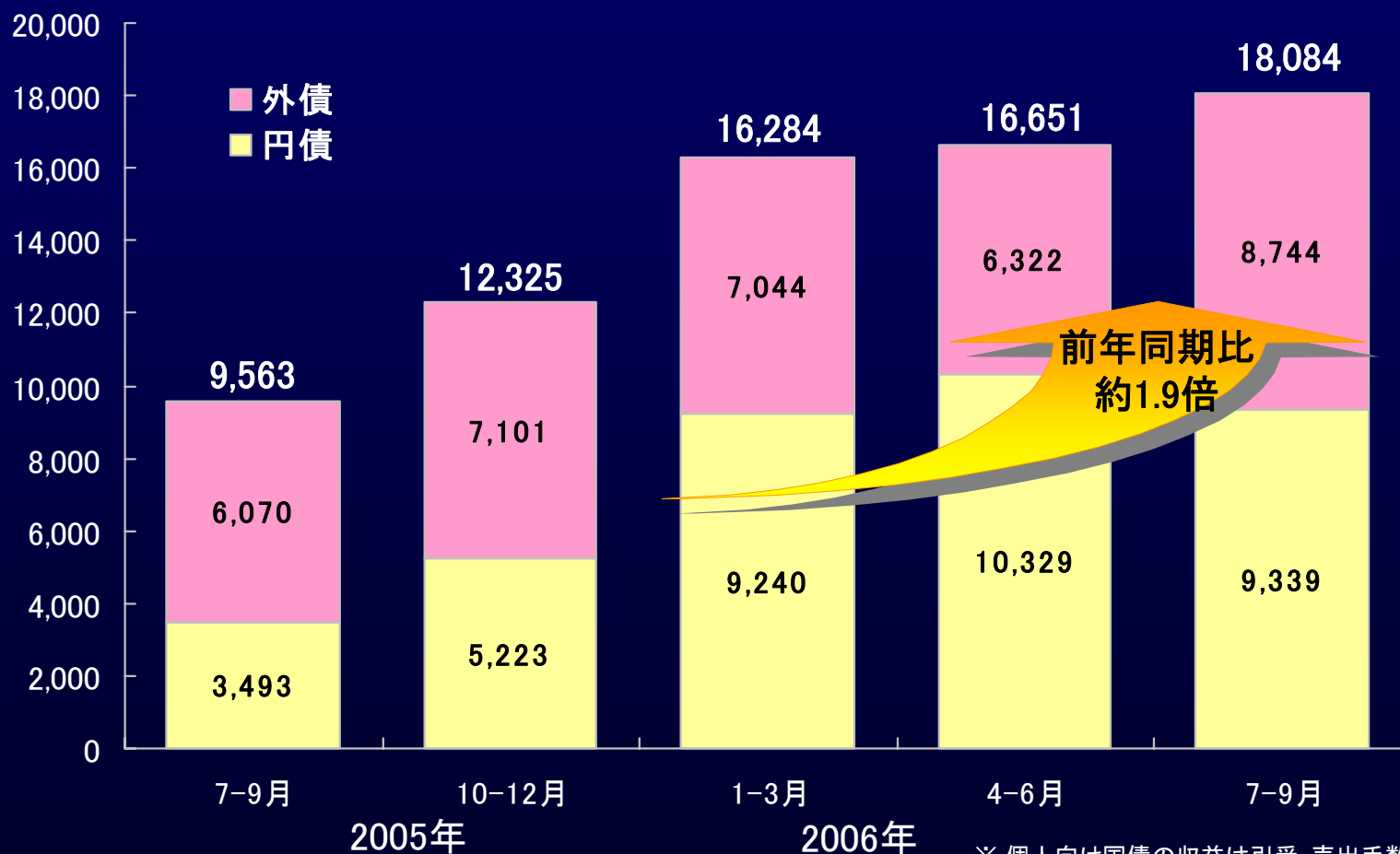
※ 公表資料等より分かりうる限りで当社にて集計。集計対象は06年4月～9月までの新規上場企業83社(上場日基準)の国内引受分で、追加売出分等は含まず。

# 好調な債券販売

## 債券(公社債・外債)販売額四半期推移

商品券プレゼンキャンペーン「ハッピーチョイス」の影響もあり、  
個人向け国債、外国債券ともに好調に推移。

(単位: 百万円)



※ 個人向け国債の収益は引受・売出手数料に含みます。



E\*Trade Korea Co., Ltd. はコスダック市場に上場準備中

## E\*Trade Korea Co., Ltd. 中間期業績

(単位: 百万円、%)

|       | 2006年3月期 中間期<br>(2005年4月～2005年9月) | 2007年3月期 中間期<br>(2006年4月～2006年9月) | 前年同期比<br>増減率 |
|-------|-----------------------------------|-----------------------------------|--------------|
| 営業収益  | 1,991                             | 2,830                             | +42.1        |
| 純営業収益 | 1,933                             | 2,666                             | +37.9        |
| 営業利益  | 235                               | 699                               | +197.3       |
| 経常利益  | 237                               | 706                               | +197.4       |
| 中間純利益 | 224                               | 521                               | +132.3       |

### (3)ファイナンシャル・サービス事業

2007年3月期 中間期

売上高 108億円(前年同期比 26. 9%増)

営業利益 12億円(同 56. 5%増)

※ 上記は従来方式(ファンド連結前)のセグメント別の数値で記載しております。

※ 連結消去および全社費用控除前の数字です。

# ファイナンシャル・サービス事業のハイライト

---

## I 増収増益の続くファイナンシャル・サービス事業の公開子会社群

- ① 「貯蓄から投資へ」の流れに乗ったモーニングスターは、第3四半期経常利益が前年同期比136.2%増の454百万円となる  
前期比2.5倍の大幅増配へ
- ② ゴメス・コンサルティングが2006年8月、大証ヘラクレスに上場
- ③ 収納代行サービスの売上高が、前年同期比約2倍と好調なSBIベリトランスは経常利益が同63.6%増の276百万円となる

## II 順調に育成の進む特色ある多様なファイナンシャル・サービス事業群

- ① マーケットプレイス事業では見積もり件数・ページビューともに順調に増加
- ② SBIモーゲージの住宅ローン実行残高は2006年9月末に2,465億円となる
- ③ 上限金利問題に進展がみられ、低コスト運営のSBIイコール・クレジットには事業拡大の好機到来

# I 増収増益の続くファイナンシャル・ サービス事業の公開子会社群

- ・モーニングスター
- ・ゴメス・コンサルティング
- ・SBIベリトランス

# 各社業績

(単位:百万円)

( )内は対前年同期比(%)

|                                         | 売上高              | 営業利益           | 経常利益            | 当期純利益                         |
|-----------------------------------------|------------------|----------------|-----------------|-------------------------------|
| <b>モーニングスター</b><br>2006年12月期第3四半期<br>※1 | 1,217<br>(+28.9) | 347<br>(+82.5) | 454<br>(+136.2) | 629 <sup>※2</sup><br>(+245.8) |
| <b>ゴメス・コンサルティング</b><br>2006年12月期第3四半期   | 374<br>(+39.9)   | 115<br>(+26.8) | 115<br>(+27.5)  | 67<br>(+26.7)                 |
| <b>SBIベリトランス</b><br>2007年3月期中間期         | 1,359<br>(+70.5) | 277<br>(+61.8) | 276<br>(+63.6)  | 136<br>(+63.1)                |

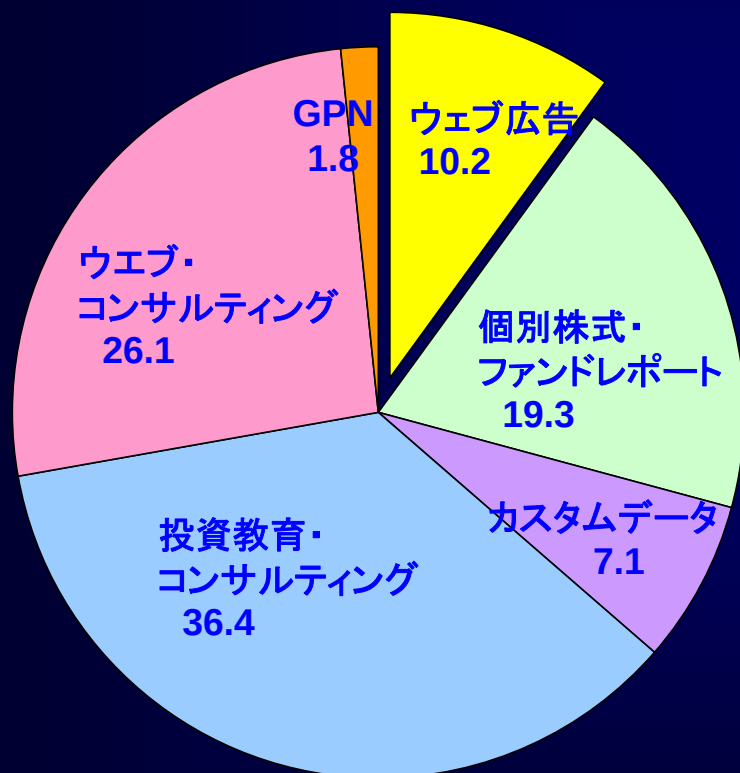
※1 モーニングスター社は連結業績、ゴメス・コンサルティング社、SBIベリトランス社は単体の業績を掲載しております。

※2 モーニングスター社は子会社ゴメス・コンサルティングが、2006年8月大証ヘラクレスに上場したことによる特別利益329百万円を計上しております。

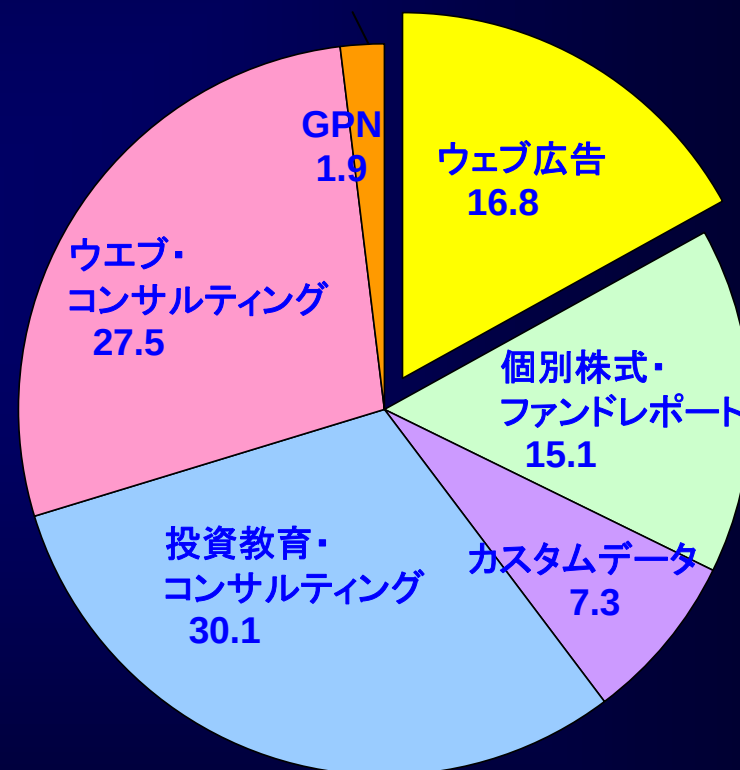
# モーニングスター(連結)の商品・サービス別の売上高構成比

## 利益率の高いウェブ広告の売上が増加

2005年度第3四半期  
(2005年1月～9月)



2006年度第3四半期  
(2006年1月～9月)



(単位: %)

# 力強く成長を続けるゴメス・コンサルティング

## 過去5期間における第3四半期の業績推移

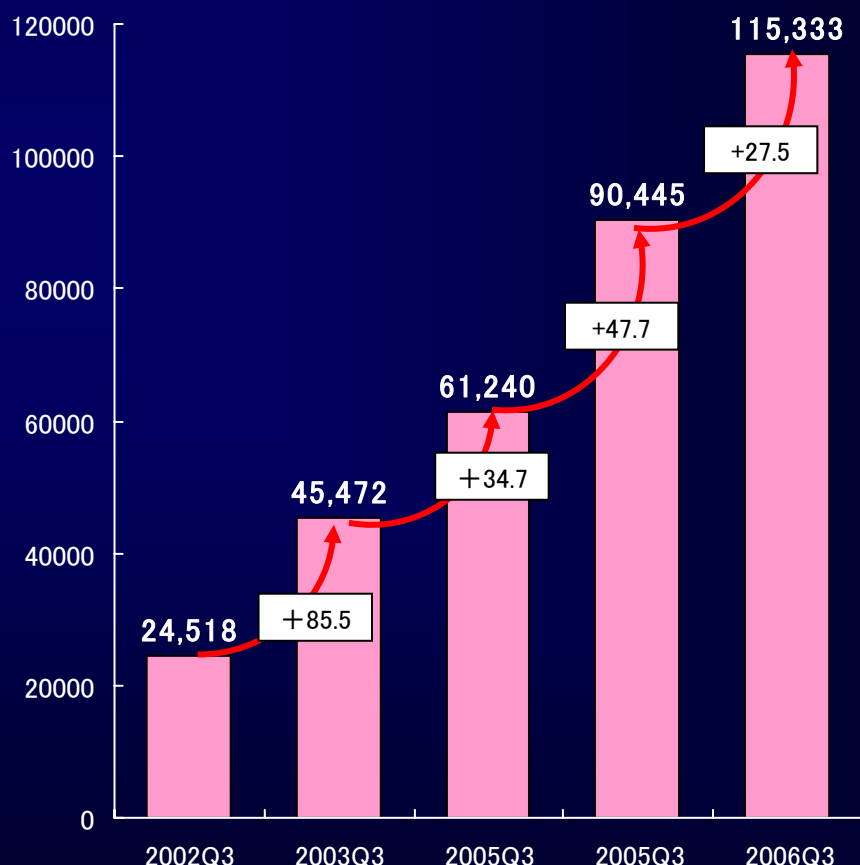
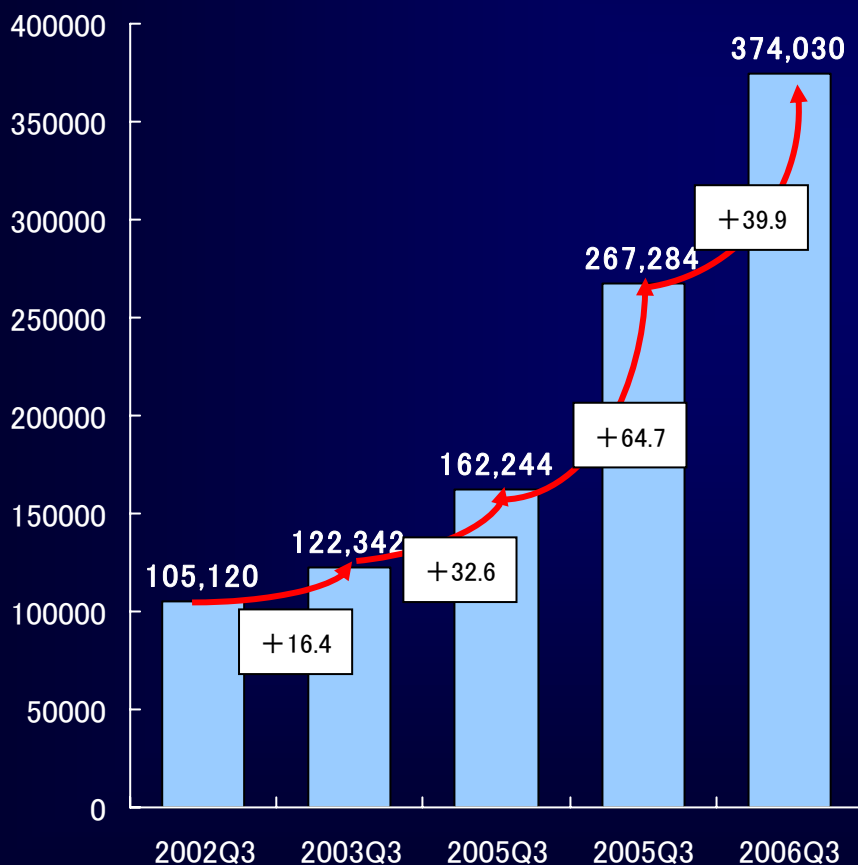
売上高、経常利益ともに過去最高を更新

(千円)

売上高

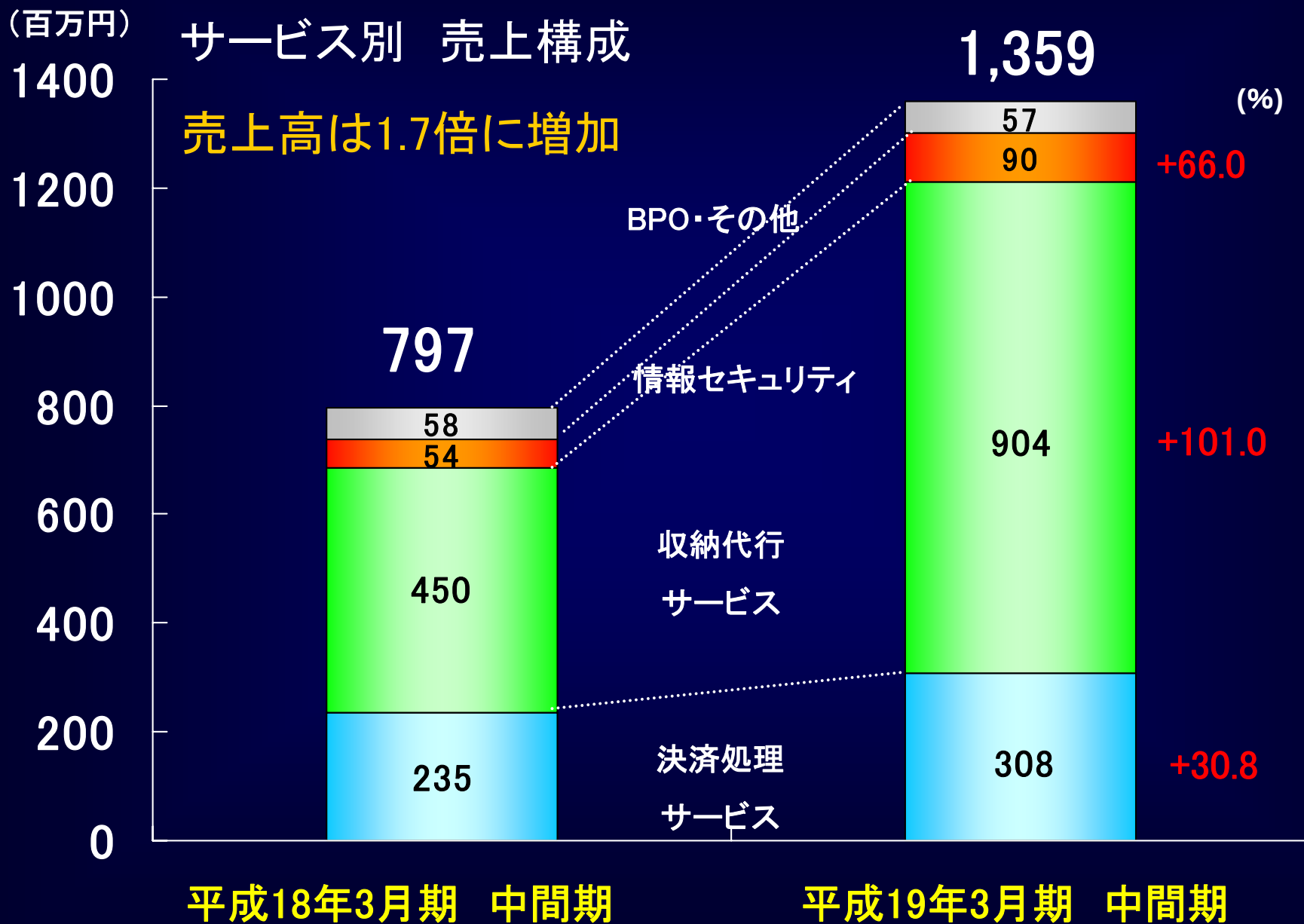
(千円)

経常利益



※ 内の単位: %

# ブロードバンド化の進展で成長を加速するSBIベリトランス



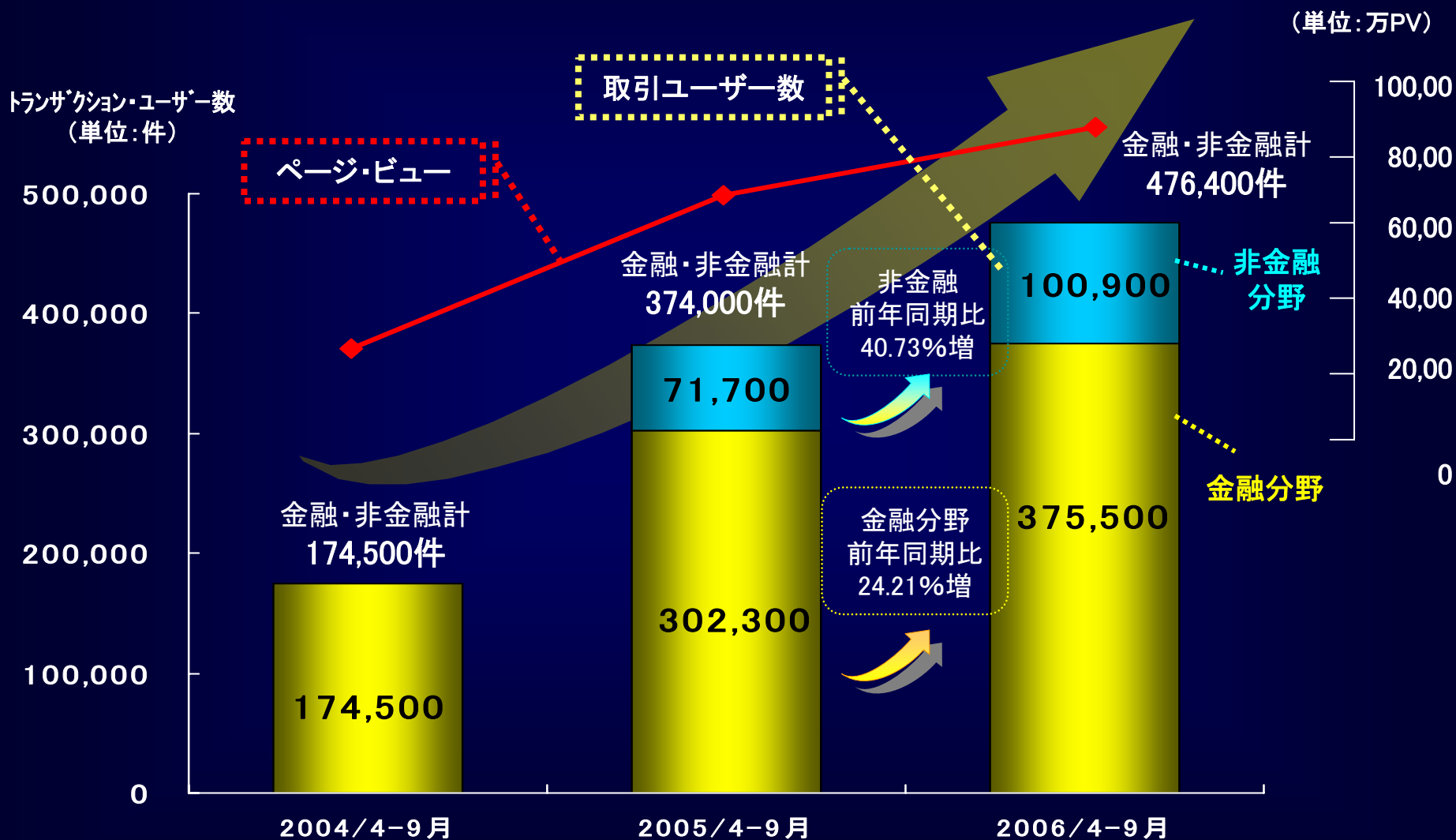


## Ⅱ 好調を続けるファイナンシャル・サービス事業群

- ・マーケットプレイス事業 (SBIホールディングス)
- ・SBIモーゲージ
- ・SBIイコール・クレジット

# イー・ローン、インズウェブを中心に好調なマーケットプレイス事業

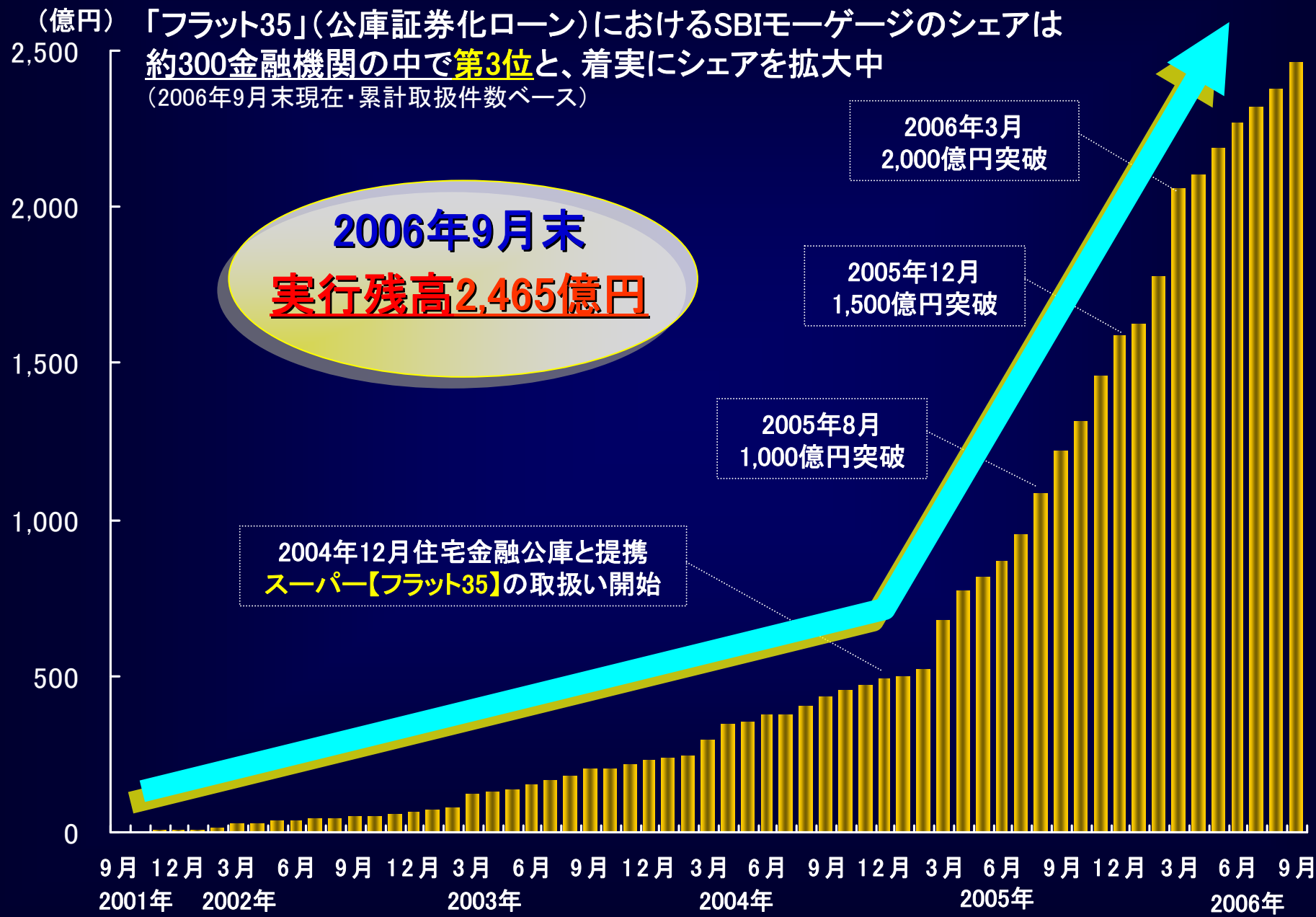
～ 非金融分野も好調、取引ユーザー数※、PVともに順調に推移 ～



※サイト上で一括見積もり、資料請求、仮申込等の取引を行なったユニークなユーザーの数

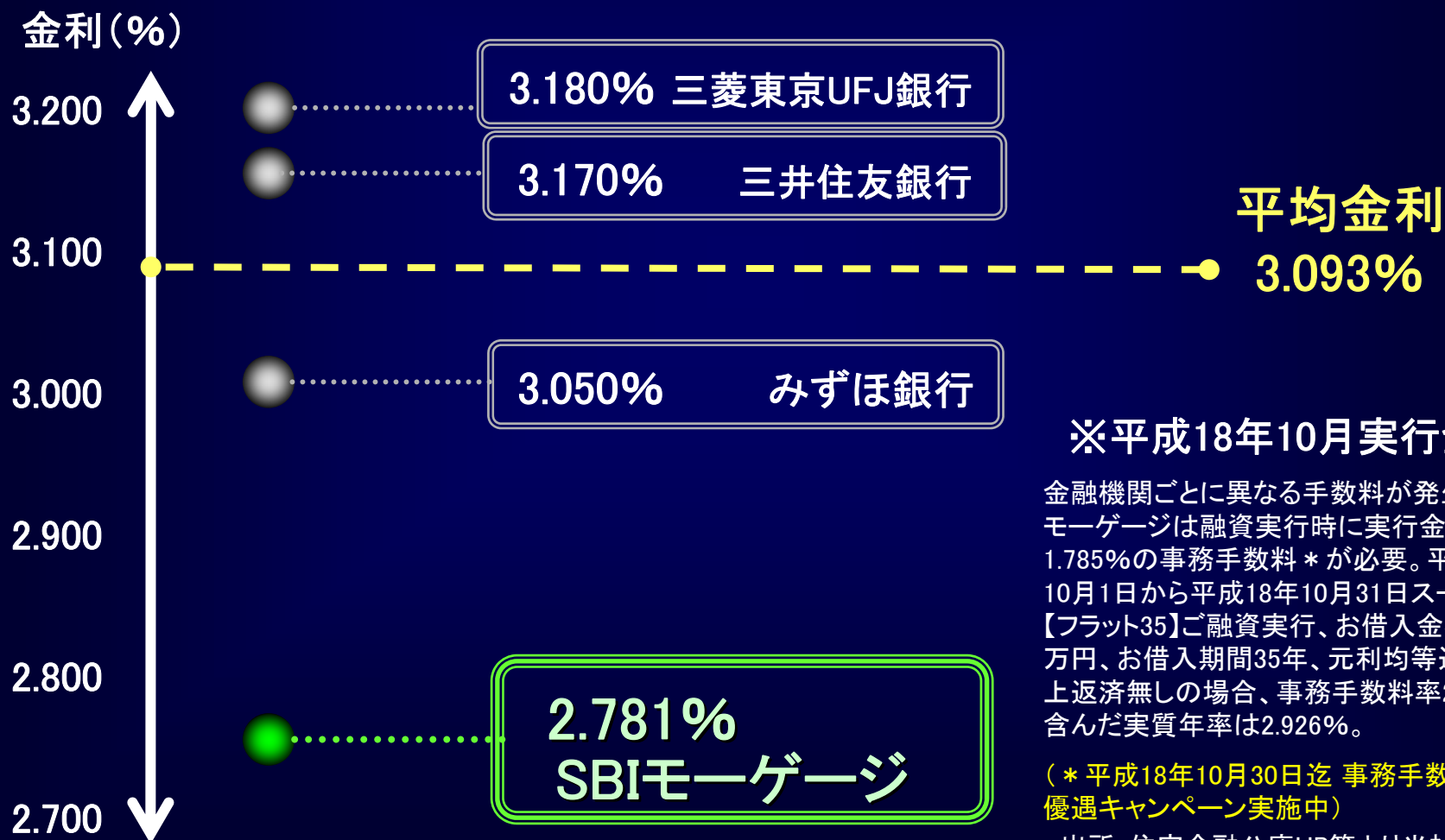
注) 金融6サイト、非金融11サイトの件数及びPV。イー・ゴルフ・サイトの件数とPV(月間1,500万PV)は含んでおりません

# SBIモーゲージの住宅ローン実行残高推移



# 「スーパー【フラット35】」(公庫証券化ローン)の金利比較

証券化を前提とした最長**35年**固定金利。低コスト運営と顧客中心主義を徹底、約300金融機関の中で**最低水準金利**を実現



## ※平成18年10月実行金利

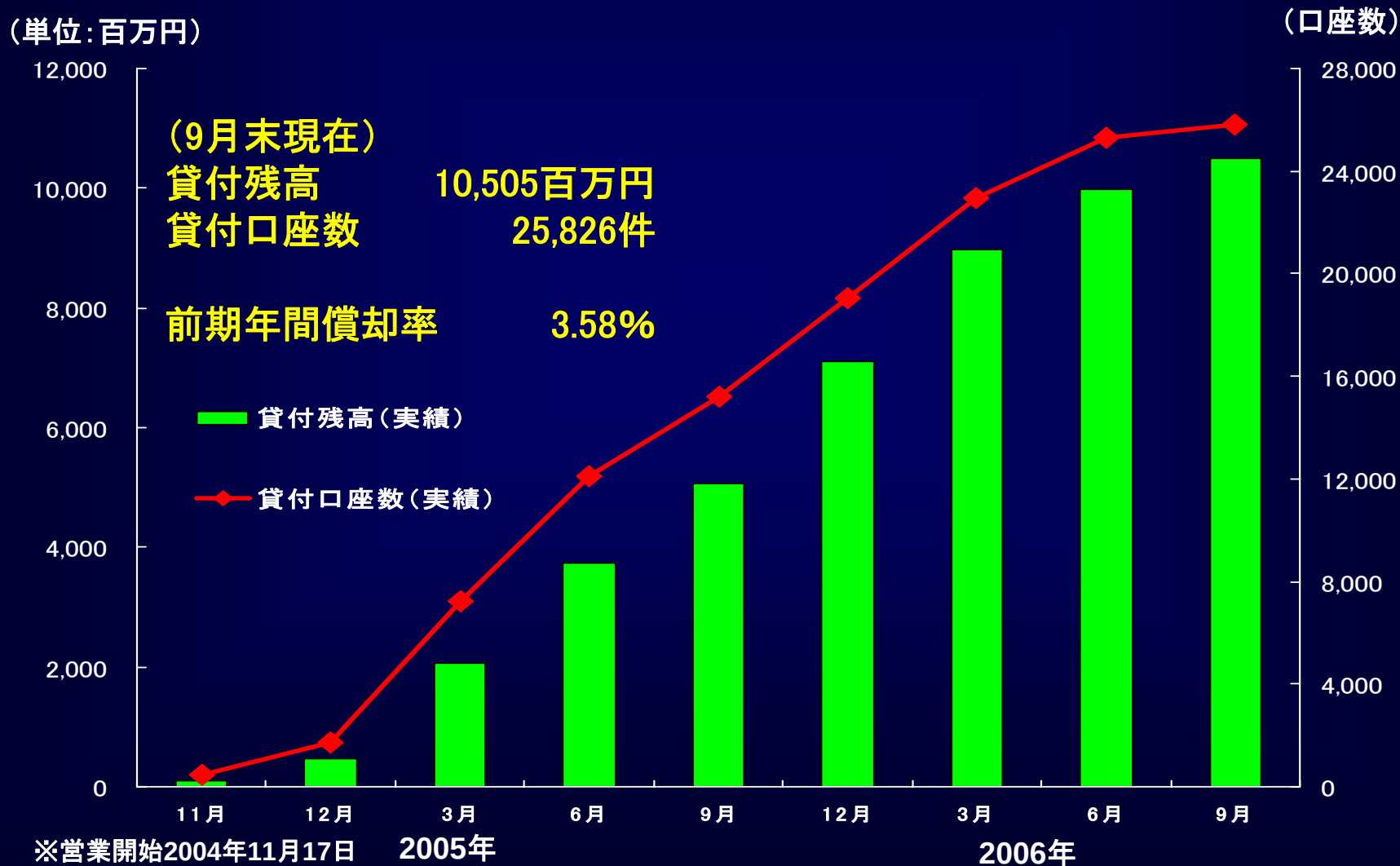
金融機関ごとに異なる手数料が発生。SBIモーゲージは融資実行時に実行金額に対し1.785%の事務手数料\*が必要。平成18年10月1日から平成18年10月31日スーパー【フラット35】ご融資実行、お借入金額3,000万円、お借入期間35年、元利均等返済、繰上返済無しの場合、事務手数料率2.1%を含んだ実質年率は2.926%。

( \* 平成18年10月30日迄 事務手数料0.3% 優遇キャンペーン実施中 )

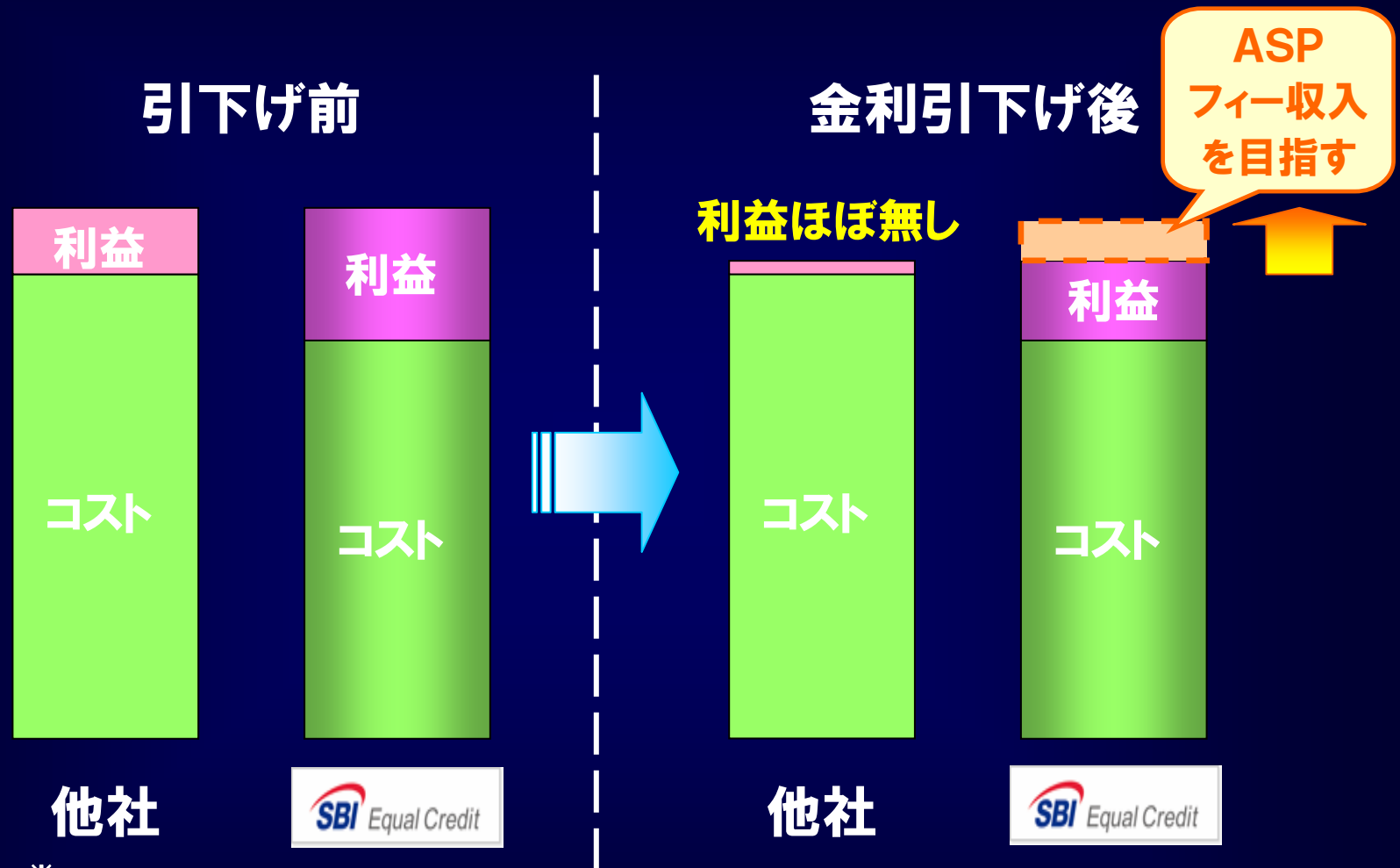
出所:住宅金融公庫HP等より当社にて作成

# SBIイコール・クレジットの貸出実績推移

営業開始後23ヶ月間で、貸付残高105億円突破！



# 出資法の上限29.2%から利息制限法の上限(15-20%)に一本化される見通し



## ※ ASPモデル提供による収益構造の多様化を図る

※ 【ASPサービス】=インターネットを通じて顧客にビジネス用アプリケーションをレンタルするサービス。  
提供者がASP(Application Service Provider)とよばれる。

### 3. 主要ビジネスラインの今後の事業戦略

## (1) アセットマネジメント事業

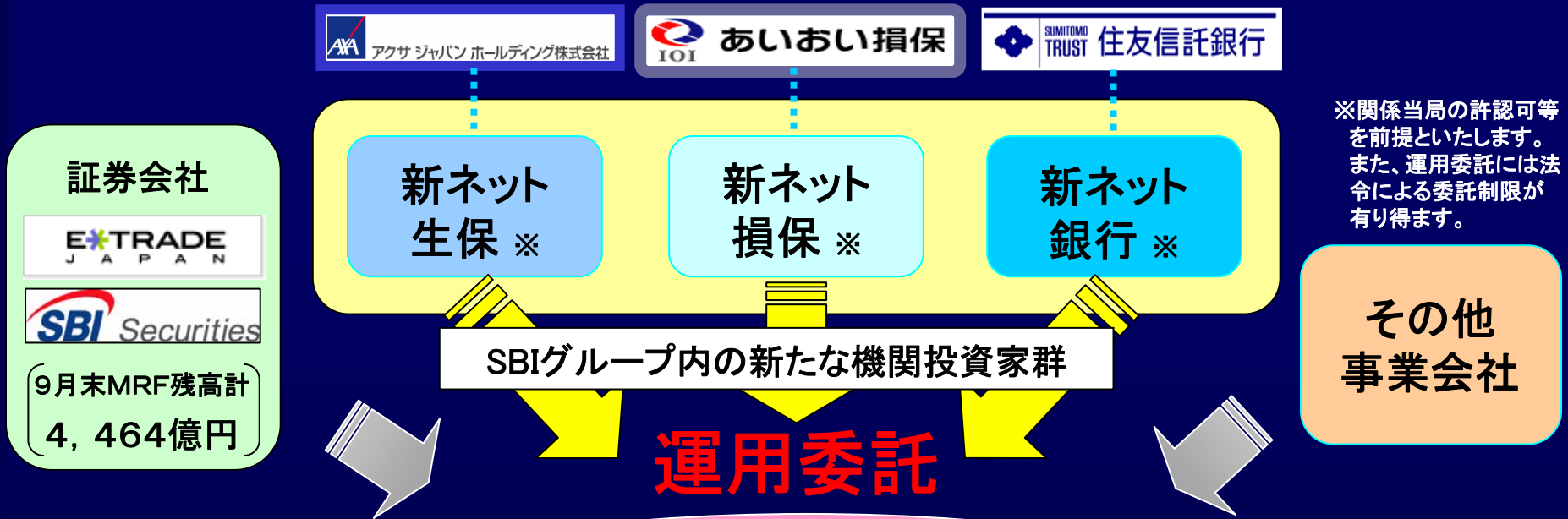
I. グループ内に機関投資家群を抱えることに  
対応する運用体制の強化

II. 「日本の産業育成」から「世界の産業育成」へ



# I . グループ内に機関投資家群を抱えることに 対応する運用体制の強化

# SBIグループの中に運用を必要とする機関投資家が誕生

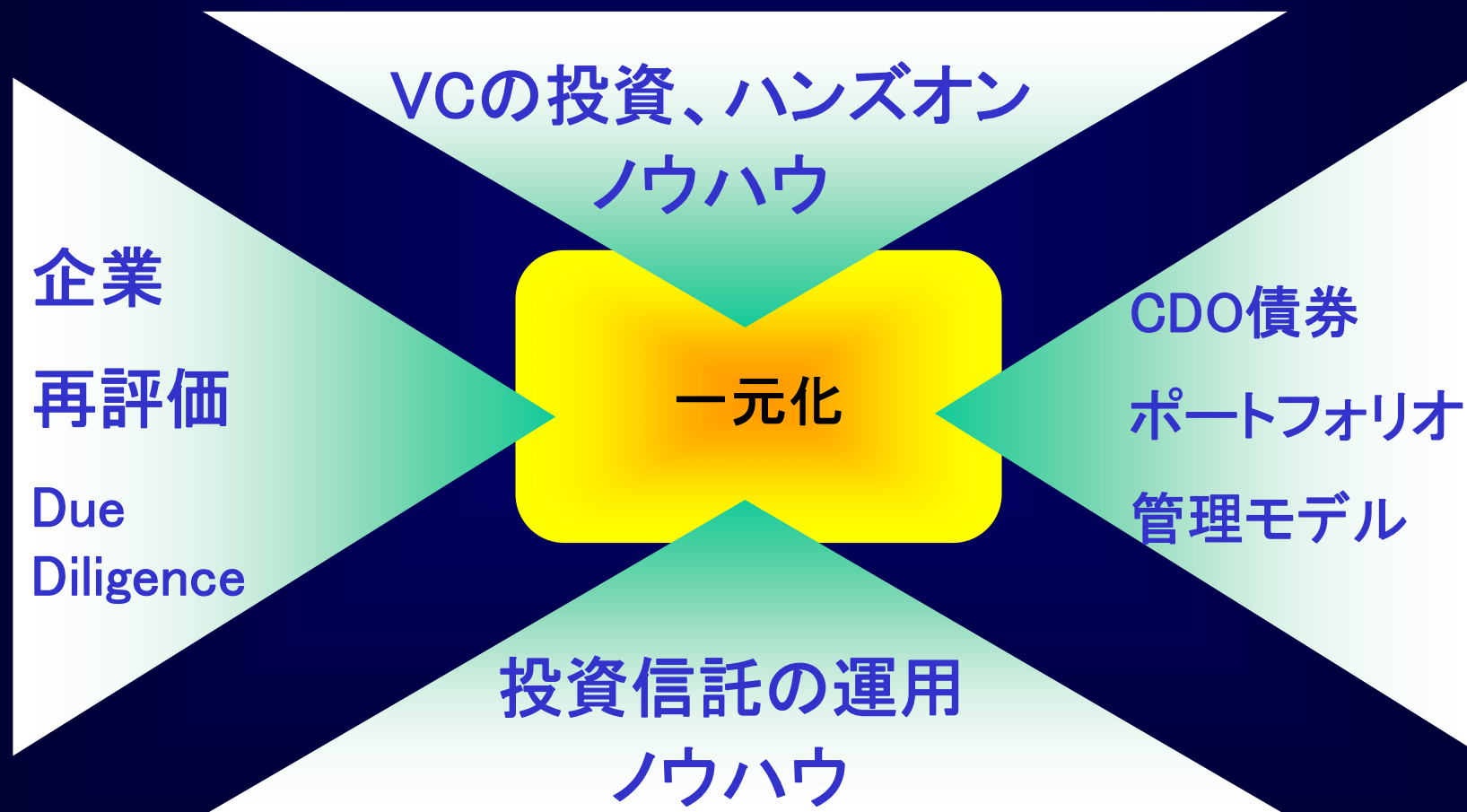


## SBIグループの強力な運用部隊

|  |                                                    |
|--|----------------------------------------------------|
|  | SBIインベストメント… <u>日本最大のベンチャーキャピタル</u>                |
|  | SBIキャピタル… <u>平均ネットIRR 20%超のバイアウト部隊</u>             |
|  | SBIアセットマネジメント… <u>ハイパフォーマンスを誇るアセットマネジメントカンパニー</u>  |
|  | SBIアルスノーバ・リサーチ… <u>CDO(債務担保証券)に強みを持つ専門家集団</u>      |
|  | SBIホールディングス… <u>BRICs・不動産といった新たな運用領域を開拓するパイオニア</u> |

# SBI総合アセットマネジメント会社(仮称)の設立へ

## - 機関投資家対応の為の組織強化 -



## Ⅱ. 「日本の産業育成」から「世界の産業育成」へ

# 「日本の産業育成」から「世界の産業育成」へ

## ①投資事業の軸足を日本からBRICsに移行する

- ・より投資効率の高い中国・インド・ロシア・ベトナム等への投資を加速する
- ・成長の続く当該国通貨の為替差益も期待できる

## ②国内においては自己投資(プリンシパル・インベストメント)を強化

- ・会計基準の変更によるファンド連結により、外部資金を活用したベンチャーキャピタル事業が正当に評価されることは難しくなった

## ③運用拠点を海外(シンガポール・香港等)に移行することを検討

- ・日本で源泉徴収(20%)されることになり、日本へ投資しづらくなっている海外投資家の資金取り込みを図る

## ④当社株式の海外(ニューヨーク・香港)市場での上場も検討

- ・海外での投資・運用事業を展開する上で優位
- ・当社の外国人持株比率は9月末で26.1%に達した
- ・当社事業のファンダメンタルは外国人に理解しやすいと思われる

# SBIグループは現地の有力パートナーとの提携により BRICs等への投資を加速

シンガポールの  
テマセク



共同で投資ファンド設立

ロシア

進出検討中



中国

進出検討中



インド

State Bank of  
India



共同で投資ファンド設立

ベトナム

SBI Holdings

国内においては  
プリンシパル・  
インベストメントを強化

# グローバル投資の現況（1）中国－1

## ① New Horizon Fund, L.P.

- 2年目半ばの現時点で7社の中国企業に投資。うち2社は今後価値向上が見込まれる非流通株であり、Pre-IPO銘柄も1社が9月上旬にIPO。

（単位：US\$ million）

| 投 資 先 名                                                           | 投資額   |         |                          |
|-------------------------------------------------------------------|-------|---------|--------------------------|
| Sinchuan MeiFeng Chemical Industry                                | 14. 8 | 非流通株    | 含み益US\$18. 6M            |
| Changsha Zoomlion Heavy Industry Science & Technology Development | 13. 6 | 非流通株    | 含み益US\$9. 2M             |
| China Printing &Dyeing Pet                                        | 3. 5  | Pre-IPO | 9月にシンガポール上場 含み益US\$2. 7M |
| China Stem Cells Holdings                                         | 4. 1  | Pre-IPO | 2007-08年上場計画 予想IRR32%    |
| Cathy Industrial Biotech                                          | 8. 0  | Pre-IPO | 2007-08年上場計画 予想IRR75%    |
| Kingsoft                                                          | 7. 1  | Pre-IPO | 2007上場計画 予想IRR82%        |
| Shineway Group                                                    | 20. 0 | Pre-IPO | 2009上場計画 予想IRR32%        |
| 合 計                                                               | 71. 1 |         |                          |

- さらに、5社の有望企業に投資を検討中で、全体の1億USDルの投資に目途をつけた。
- 現在、5億USDルまで規模を拡大した2号ファンドの設立を検討中。

# グローバル投資の現況（1）中国－2

## ② Kingsway SBF Investment Company Ltd.

- ・ 当初募集額10億円に対しファンド時価純資産は15億円

## ③ LC Fund III, L.P.

- ・ 運営開始半年間で、中国国内で事業展開する有望企業7社へ出資。ファンド総額の39.5%を消化した。

## ④ 中国清華大学のTSINGHUA HOLDINGSとの提携

- ・ 産学共同ファンド設立に向けて交渉が具体化
- ・ JVでマネジメントカンパニーを設立
- ・ ファンド総額はUS \$ 30Mを想定
- ・ 対象はIT・ハイテク分野・ライフサイエンス・環境エネルギー等





# グローバル投資の現況（2）韓国

## ① E\*TRADE KOREA

- ・ 2007年3月期(中間期) 売上高28億円、経常利益7億円(円換算後の概算額)
- ・ 2007年早々にもKOSDAQ市場に上場予定

## ② 現代スイス I・II (貯蓄銀行)

- ・ SBI KOREA HOLDINGSを通じ、現代スイス I には10%、現代スイス II には20%を出資
- ・ 現代スイス I 売上高218億円 経常利益33億円(2006年6月期 円換算後の概算額)  
現代スイス II 売上高99億円 経常利益34億円(2006年6月期 円換算後の概算額)
- ・ 現代スイス I は2006年6月期に総額5億円の現金配当を実施
- ・ 投資総額7.9億円に対し、現在まで1.1億円の累積配当を受領
- ・ 現代スイス I は上場要件をすでにクリアし、IPOに向けて準備を開始

## ③ Valuemeet Investment

- ・ SBI KOREA HOLDINGSを通じ、33%を出資
- ・ 韓国において約26億円の企業再生ファンドを運営
- ・ 2005年12月期は売上高3億円 経常利益33百万円

# グローバル投資の現況（3）インド

## いよいよ本格的にビジネスを開始

### ① State Bank of India との投資ファンド設立

- インド最大の商業銀行であるState Bank of Indiaのベンチャーキャピタル部門とインド国内の先端分野を対象にした1億USDルのベンチャーキャピタルファンドを共同設立することで合意
- 今後State Bank of Indiaとは、インド国内でのインターネット金融事業の導入についても協力して検討を行っていく予定。

### ② 「TATA INDIAN Opportunities Fund」への出資

- インドの最大財閥であるタタ・グループとの連携の手始めとして、同グループが運営する「TATA INDIAN Opportunities Fund」に出資

### ③ インド有力金融機関とのさらなる提携を検討中

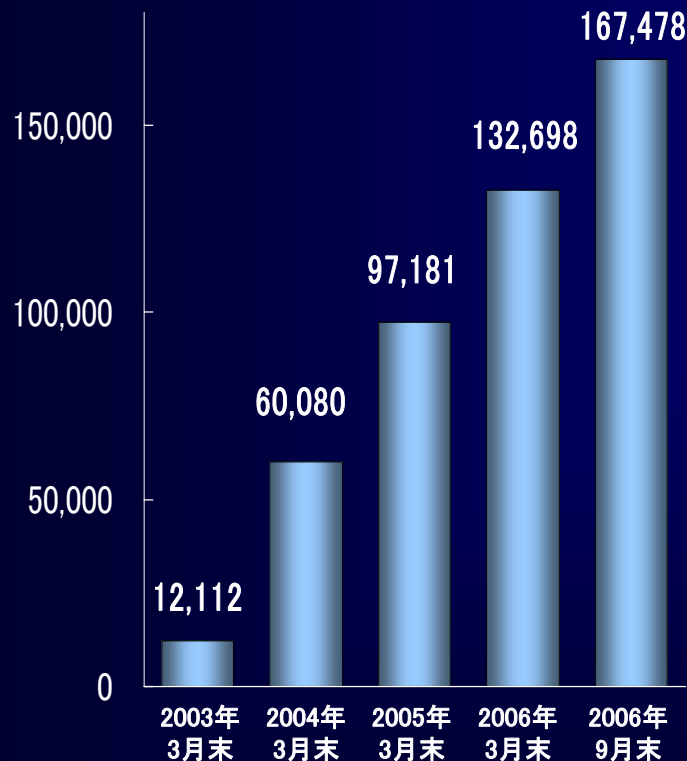
- アセットマネジメント事業を中心に、複数のインド国内金融機関と接触
- 投資ファンド運営、投資信託、不動産投資等の分野において、JV設立を想定

# SBIホールディングス 株主構成の推移

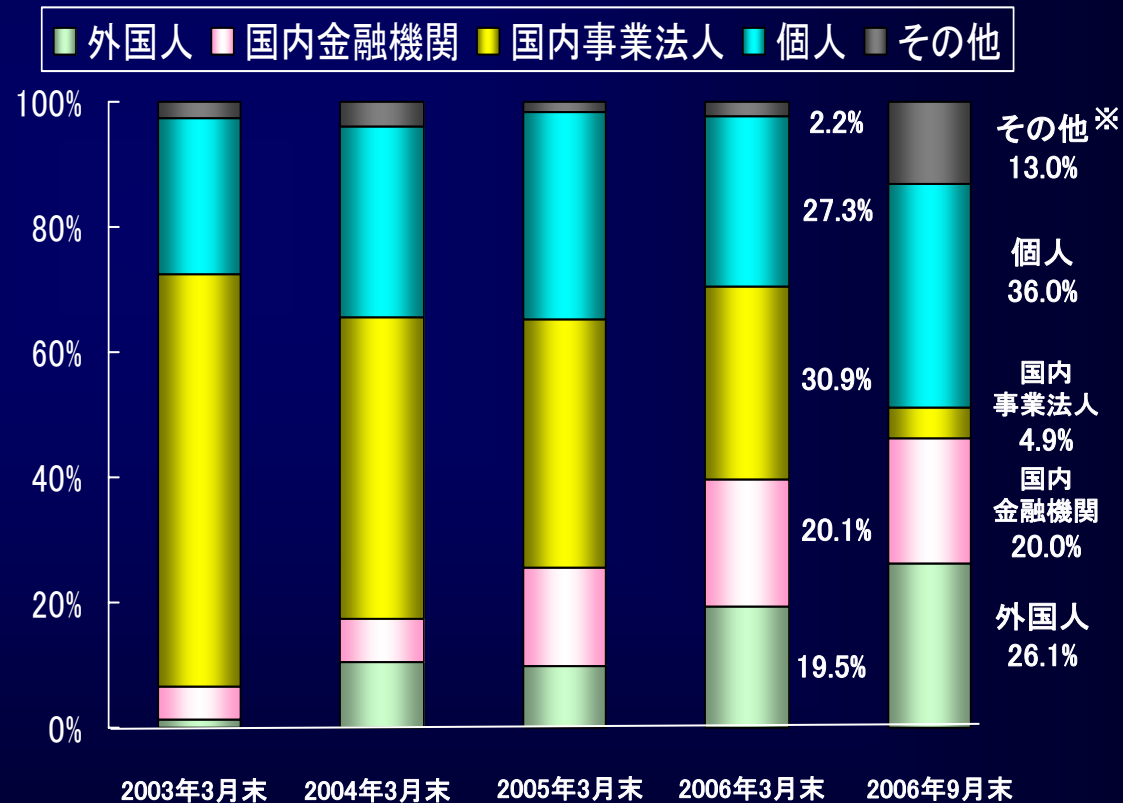
ソフトバンクとの資本関係は2006年8月に完全に解消  
外国人比率は、2006年3月末19.5%から9月末26.1%へ上昇

(単位:名)

## 株主数の推移



## 株主構成比率の推移



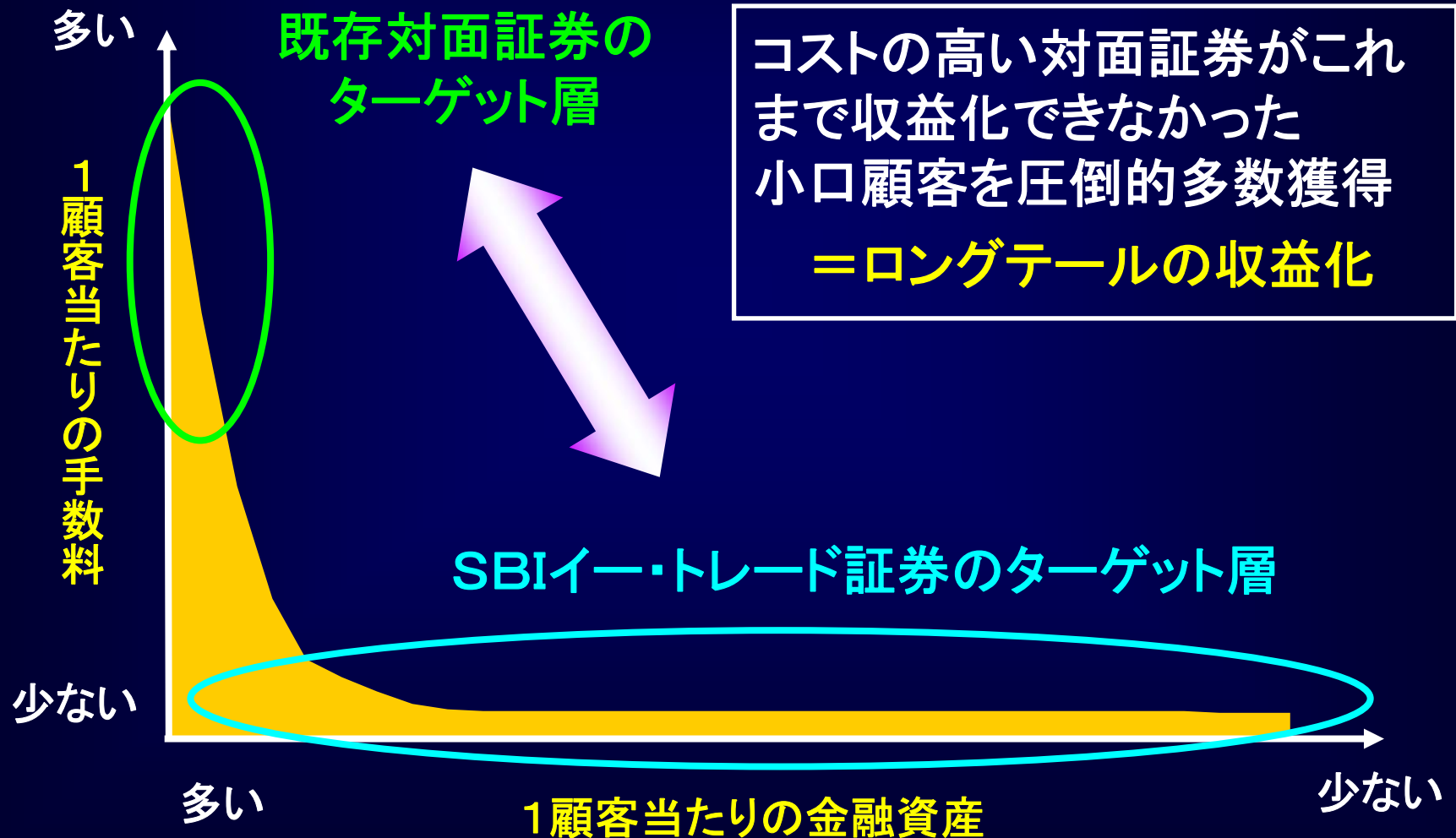
※ その他には「自己株式」9.0%を含む

## (2)証券関連事業

- I. ネット証券業界で更に圧倒的な地位を確立する
- II. 「ネット証券界の雄」から「証券界の雄」を目指して

# I . ネット証券業界で更に圧倒的な地位を確立する

# SBIイー・トレードは以前から“ロングテール”の 収益化に成功してきた



# ロングテール理論からの発展戦略

戦略①ロングテールをいかに更に**長く**するか

➡ 新規顧客の獲得

戦略②ロングテールをいかに**太く**するか

➡ 取引頻度の上昇

【例：イー・トレード エレメンタリー(仮)、イー・トレードSNS(仮)、  
トレーディングツールの高度化等・・・】

ビジネスの拡大

ロングテール

戦略②



太く

戦略①

||| ➡ 長く

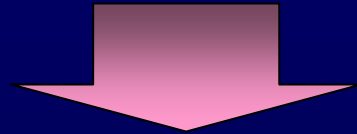
## Ⅱ.「ネット証券界の雄」から「証券界の雄」を目指して



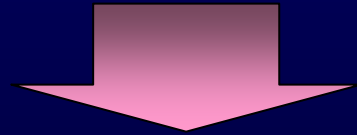
# 「ネット証券界の雄」から「証券界の雄」へ

ブローカレッジでは既に我が国証券界No.1へ

(2007年3月期第2四半期株式委託売買代金シェア SBIイー・トレード10.32% 野村6.66%)



圧倒的なブローカレッジの強さを背景とした  
インベストメントバンキング業務・プライベートバンキング業務の強化



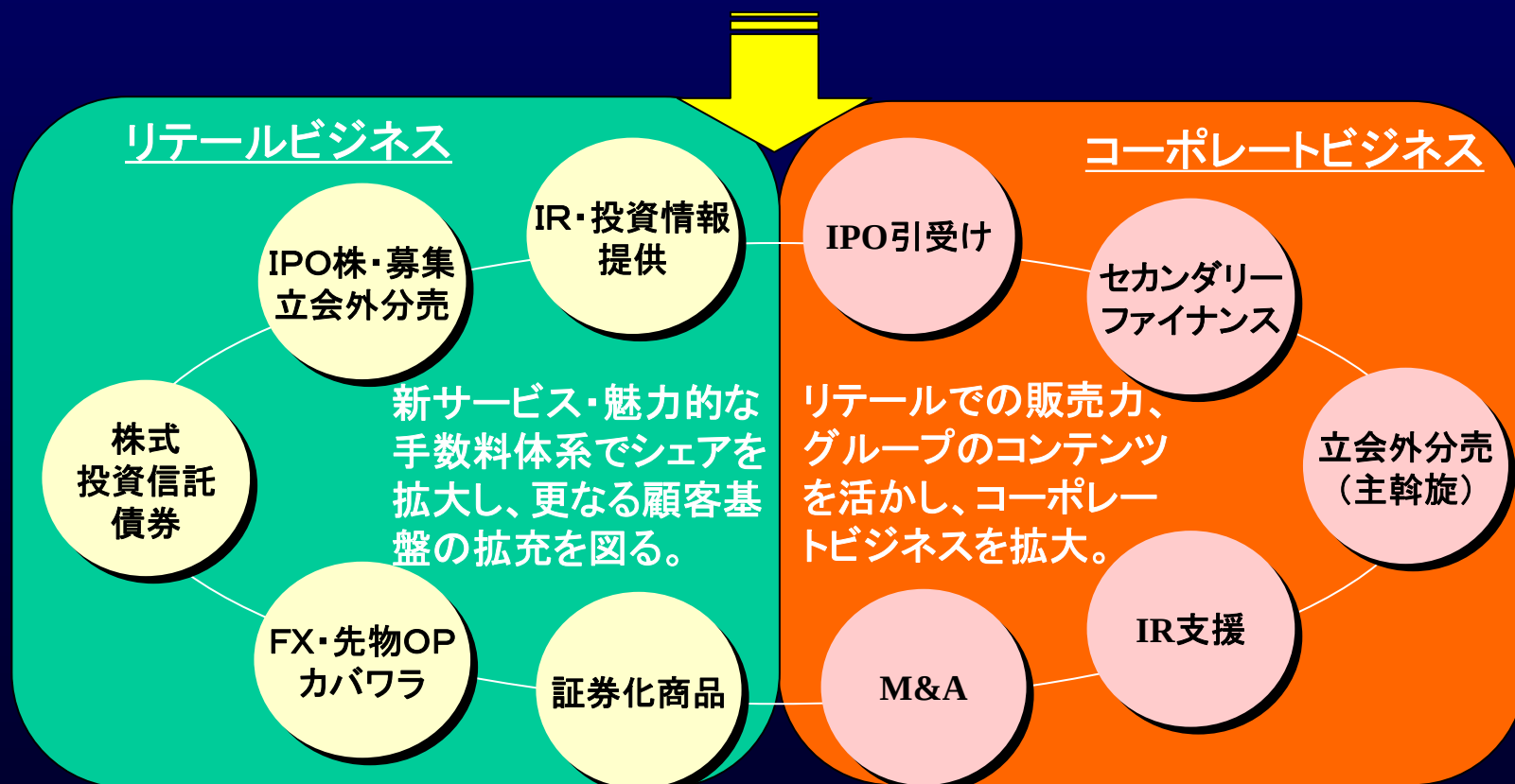
今期の位置付け

SBIイー・トレード証券とSBI証券の連携強化及び  
将来のインベストメントバンキング業務・プライベート  
バンキング業務等に本格的進出する布石を打つ

# ① SBI証券とSBIイー・トレード証券との連携強化による インベストメントバンキング業務の本格的展開

# SBIイー・トレード証券は 「オンライン総合証券」としてコーポレートビジネスを拡大

圧倒的なシェアを誇る顧客基盤 : 1,311,004口座(2006年9月末現在)  
拡大する個人委託売買代金シェア : 30.7%(2007年3月期第2四半期)



# SBIイー・トレードにおける IPO引受業務・主幹事業務の拡大

第1四半期に続き中間期でもIPO関与率トップとなる

引受主幹事業務への取組み

## 第2号案件

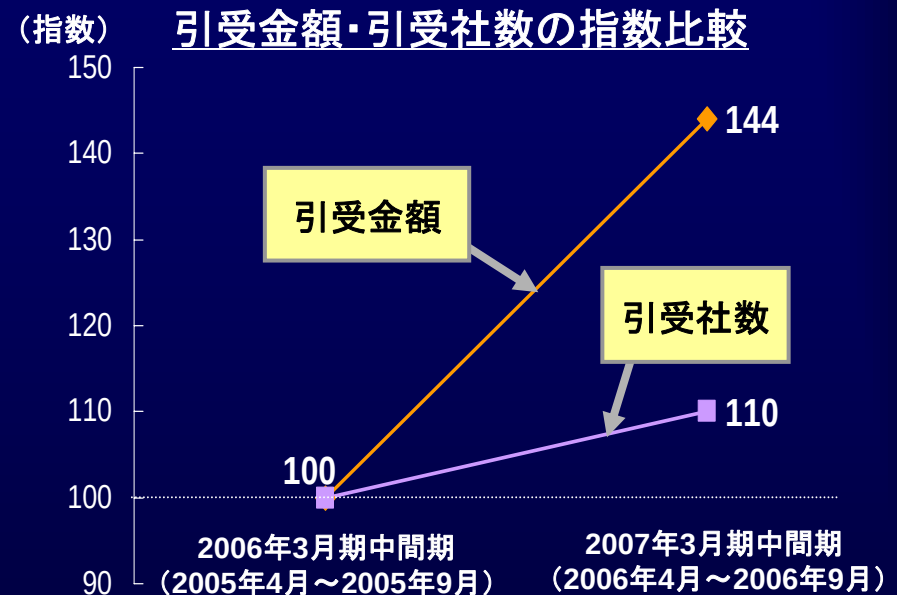
株式会社ネットエイジグループ

2006年8月30日 東証マザーズ市場へ上場

## 第3号案件

株式会社アイレップ

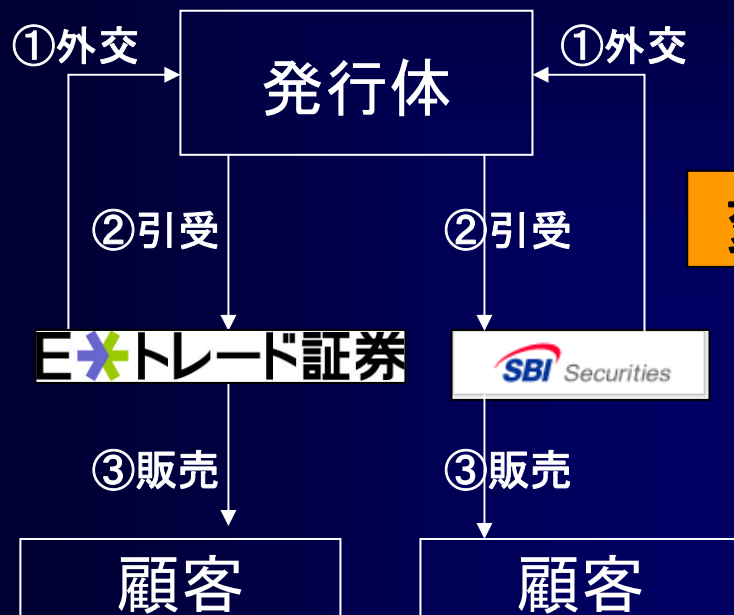
2006年11月16日 大証ヘラクレス市場へ上場予定



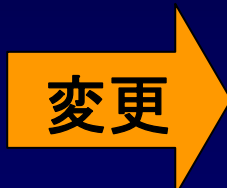
18社の未公開企業から主幹事指名を獲得している

# SBIイー・トレード証券とSBI証券の引受業務の統合 : 委託販売の開始

【変更前】



【変更後(平成18年2月～)】



変更前

・SBIイー・トレード証券およびSBI証券が独立して引受外交を実施し、各々がシェアを獲得

変更後

・SBIイー・トレード証券が幹事入りして獲得した引受玉の一定割合を、SBI証券が委託販売



平成18年2月より、本体制へ移行  
当中間期では合計33件の委託販売を実施

# PO等様々なインベストメントバンキング業務の強化

E\*トレード証券

SBI Securities

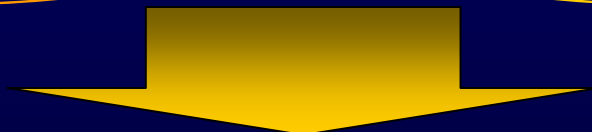
ネット

- ・ブローカレッジにおける圧倒的シェア
- ・IPOにおける高い引受関与率

リアル

- ・販売力
- ・提案力
- ・関係構築力

Synergy



セカンダリー

ファイナンスへの対応

立会外分売

(主幹旋案件)の獲得

M & A

多様なニーズに対応可能な体制を構築する

# 夜間取引市場開設準備を開始

来年早いタイミングでのサービス開始を目指す

＜夜間取引市場のイメージ案＞

個人売買代金

5社合算シェア約51.4% ＜検討中のサービス内容＞

＜PTS運営主体＞

(2006年9月単月)

＜認可申請＞

接続



夜間取引市場

システム運営会社

接続

接続

接続

接続



SBIイー・トレード証券が金融庁へのPTS認可を申請予定。参加各社はシステム運営会社へ接続し、決済等はSBIイー・トレード証券と行なう形式にて検討中。

|         |                                                                       |
|---------|-----------------------------------------------------------------------|
| 取引開始時期  | 平成19年2月～3月頃                                                           |
| 立会時間    | 20:00～23:50<br>(予定)                                                   |
| 価格決定方式  | オークション方式                                                              |
| 取引の種類   | 国内株式(現物・一般信用取引)                                                       |
| 取扱銘柄    | 東証・大証・名証・福証・札証・JASDAQ<br>(マーケットメイク銘柄含む)上場銘柄より夜間市場運営者が選定<br>(銘柄数等詳細未定) |
| 呼値・値幅制限 | 取引所と同様                                                                |

## ② SBI証券とSBIイー・トレード証券との連携強化による プライベートバンキング業務の本格的展開



# SBIグループの富裕層顧客に向けたプライベートバンキングの展開



## SBIグループの富裕層顧客基盤

### ・証券事業における富裕層顧客の増加

SBIイー・トレード証券預かり残高5,000万円以上  
5,747口座(2006年9月末)

SBI証券預かり残高5,000万円以上  
1,197口座(2006年9月末)

2社計6,944口座

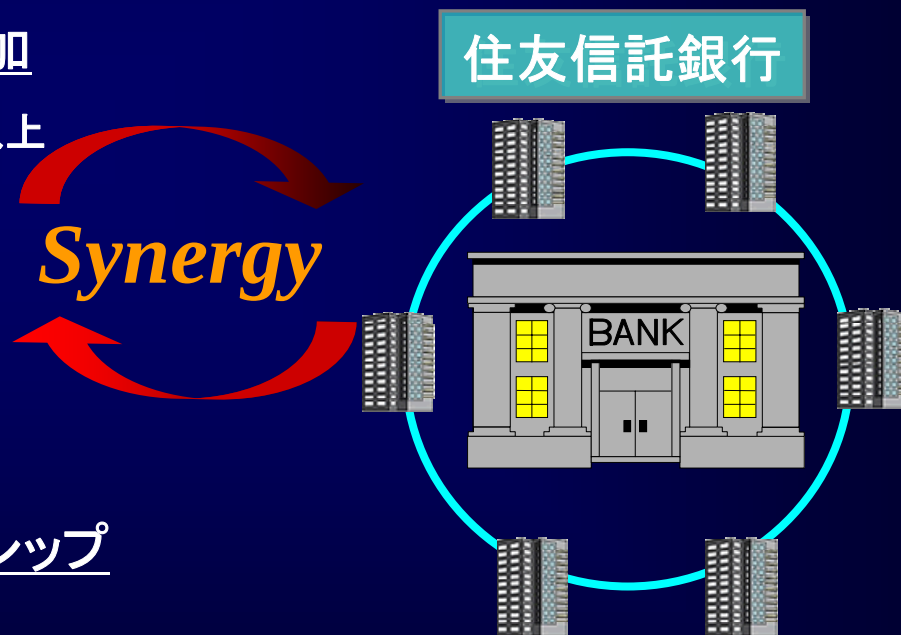
### ・ベンチャーキャピタル事業における 新興富裕層との強力なリレーションシップ

運営ファンド投資社数約310社(2006年9月末)

Exit社数累計94社(2006年9月末)

## 信託機能

- ・遺言信託
- ・金銭信託
- ・不動産の信託



# 富裕層向けの特別な投資商品創造に向け SBIグループアセットマネジメント事業の総力を結集する



# SBIイー・トレード証券の富裕層顧客を SBI証券へ誘導できる体制の構築へ

(口座)

6,000

5,000

4,000

3,000

2,000

1,000

0

SBIイー・トレード証券 預かり資産  
5,000万円以上の口座数推移

327

444

995

1,906

4,010

5,747

01/9月

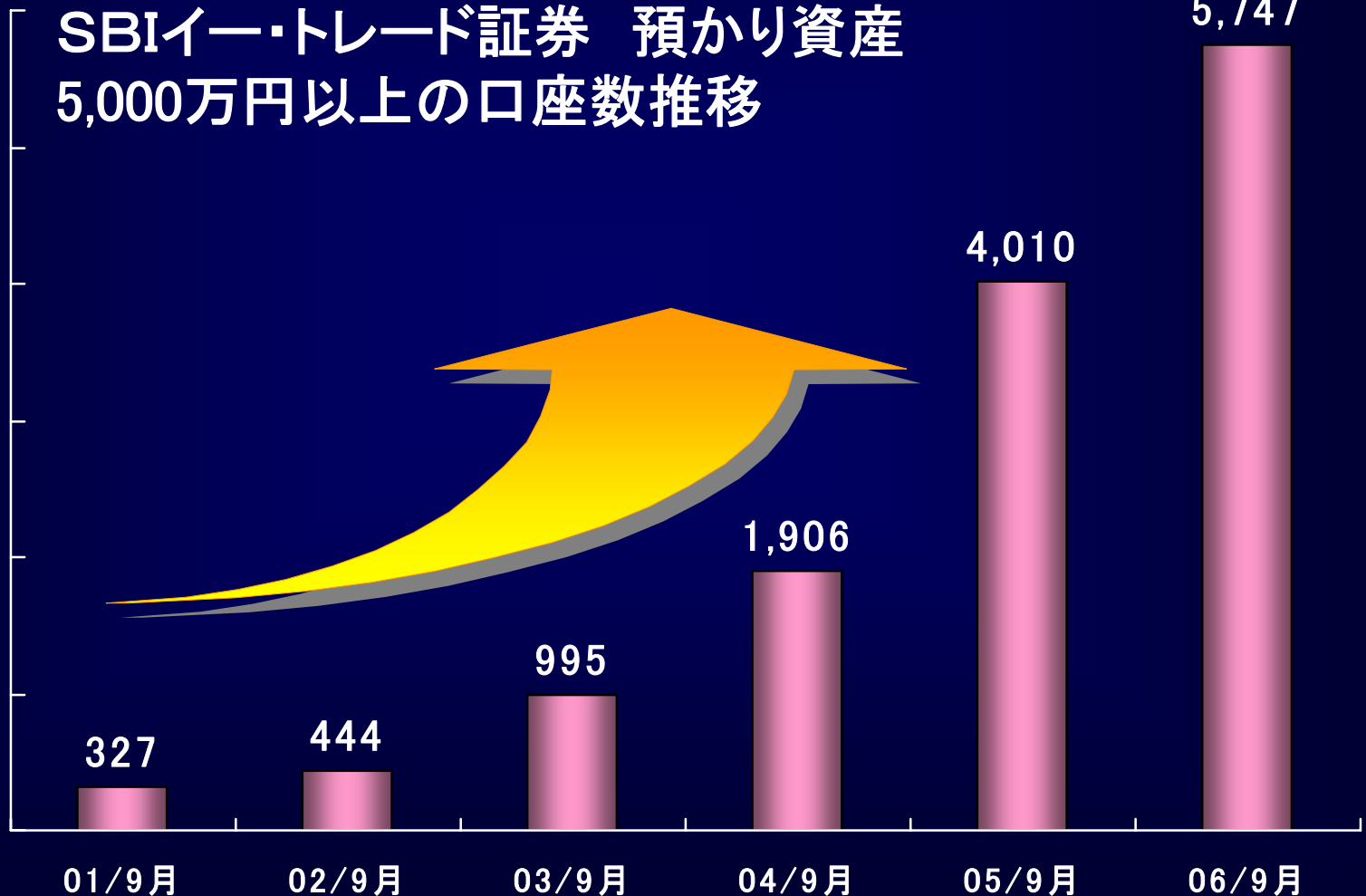
02/9月

03/9月

04/9月

05/9月

06/9月



# リアル based on ネット証券モデル

|    | ネット証券                                                                                                                                  | リアル証券                                                                                                 |
|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 長所 | <ul style="list-style-type: none"><li>•低コスト</li><li>•圧倒的集客力</li><li>•圧倒的取引ボリューム</li></ul>                                              | <ul style="list-style-type: none"><li>•地域密着</li><li>•対面(プッシュ型)営業力</li><li>•顧客を差別化できる</li></ul>        |
| 短所 | <ul style="list-style-type: none"><li>•ブローカレッジへの依存度が高い</li><li>•継続的なシステム投資・手数料引き下げ競争により収益性が高められない</li><li>•顧客に対して細やかな対応ができない</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>•高コスト(人件費・物件費etc.)</li><li>•弱い集客力</li><li>•少ない取引ボリューム</li></ul> |

相互補完

全体  
効果

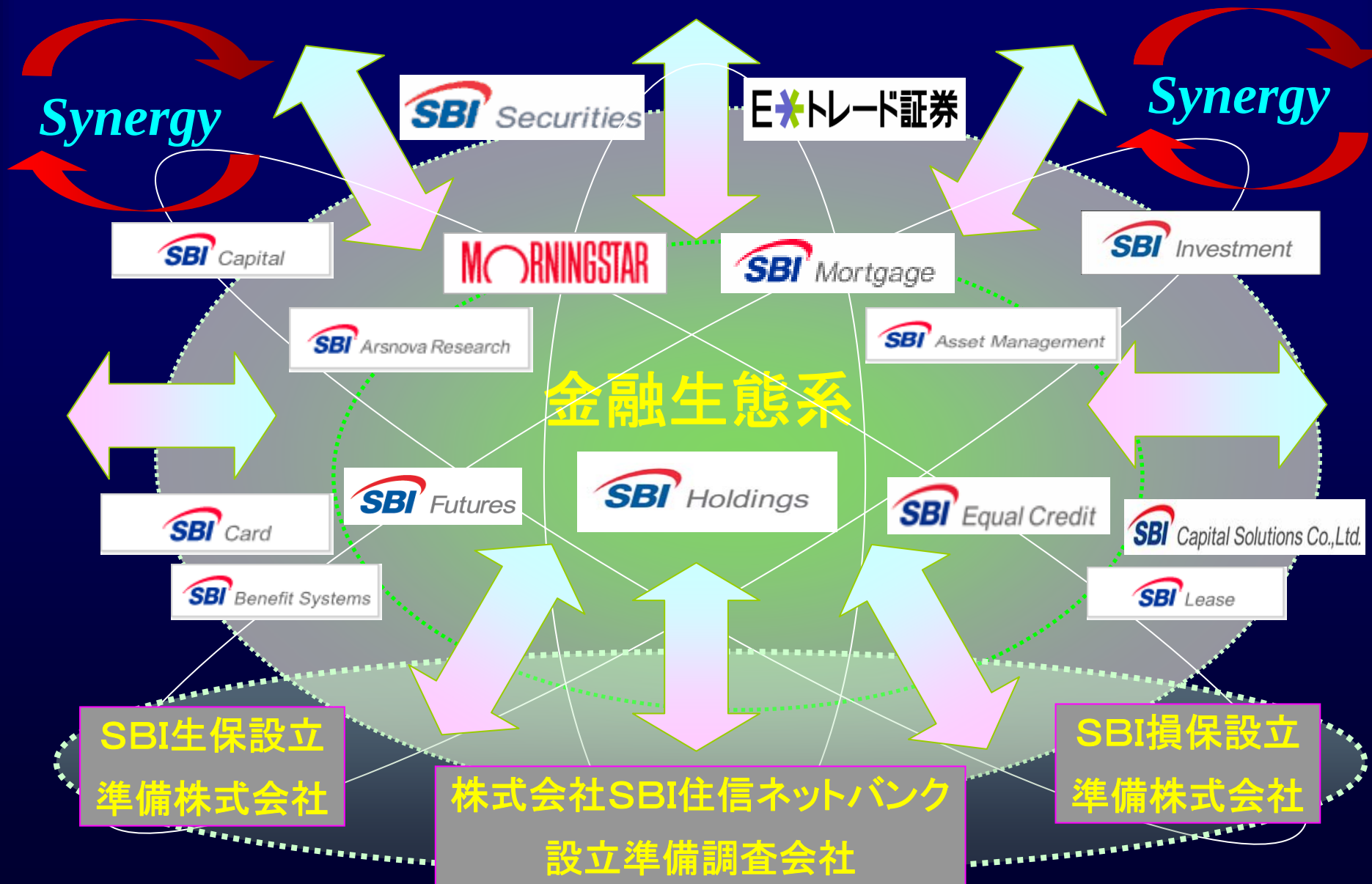
相互の弱みを補完でき  
差別化要因となる

ネット証券の圧倒的な集客力によって獲得した富裕層・潜在富裕層に対して、リアルチャンネルを通じてより高度なサービスを提供できる。

### (3)ファイナンシャル・サービス事業

- ・間近になった我が国最大の金融商品ディストリビューターを  
目指した金融分野での企業生態系の完成

# 銀行・生損保の参加により金融生態系の完成へ



# 新ネット銀行設立に向けた準備状況



2005年10月25日

インターネット銀行の共同設立および資本・  
業務提携に関する基本合意書締結

2006年4月

「(株)SBI住信ネットバンク設立準備調査会社」設立

【資本金】40億円

【出資比率】SBIH 50% 住友信託銀行 50%

Now

銀行免許取得手続中 / システム構築中

新ネット銀行営業開始 (2007年上半期)

当初出資金: 200億円程度

従業員数: 80名程度

本店所在地: 港区六本木1-6-1 泉ガーデンタワー

【役員】

代表取締役社長 田中嘉一  
取締役 森田 豊  
取締役 富松哲哉

【役員】

代表取締役副社長 川島克哉  
取締役 北尾吉孝  
取締役 木村紀義

# 住友信託銀行との多面的提携による事業進展

## SBIイー・トレード証券

2006年4月3日

SBIイー・トレード証券と住友信託銀行との市場誘導業務提携により、住友信託銀行がSBIイー・トレード証券に引受先候補企業の紹介を開始

## SBIモーゲージ

2006年6月30日

全国の住友信託銀行の店舗にて、SBIモーゲージと住宅金融公庫の提携商品である「スーパーフラット35」の紹介を開始

## モーニングスター

2006年5月8日

住友信託銀行販売の「住信 財産四分法ファンド(毎月決算型)」に関して、モーニングスター・アセットマネジメントを通じた投資助言の提供を開始



# 新ネット損保設立に向けた準備状況

## SBI損保設立準備株式会社

代表取締役社長  
取締役  
取締役

松井 真治  
山崎 昇一  
北尾 吉孝

代表取締役副社長  
取締役  
岡田 匡央  
住野 彰

 SBI Holdings



 あいおい損保

【資本金】 1億円

【出資比率】 SBIホールディングス66.6% あいおい損害保険33.4%

### ■今後の予定

2006年度下期中 : 保険事業免許取得

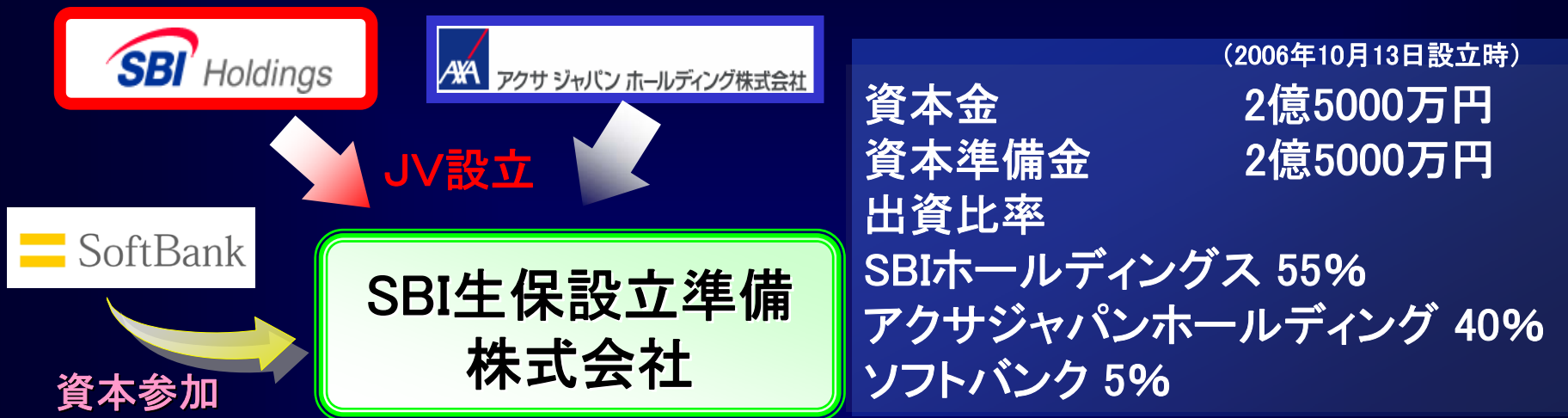
(取得後、損害保険会社として商号変更を実施)

2007年度上期 : 営業開始(当初取扱い種目は自動車)

増資後の資本金(予定) 30億円

※関係当局の許認可等を前提といたします。

# アクサ ジャパン ホールディング株式会社と SBI生保設立準備株式会社を設立(2006年10月13日)



## 【役員構成】

|          |                                    |
|----------|------------------------------------|
| 代表取締役社長  | 木村 真輔(現SBIホールディングス(株)保険事業企画室長)     |
| 代表取締役副社長 | ギ・マルシア(現アクサ損害保険(株)代表取締役社長)         |
| 取締役      | 北尾 吉孝(現SBIホールディングス(株)代表取締役執行役員CEO) |
| 取締役      | アレックス・木村(現アクサ ジャパン ホールディング(株)執行役員) |
| 取締役      | 幸野 善行(現SBIホールディングス(株)保険事業企画室付部長)   |

## ■今後の予定

|             |             |
|-------------|-------------|
| 生保事業開業時期    | ： 平成19年度下期  |
| 生保事業開業時取扱商品 | ： 医療保険・定期保険 |

※関係当局の許認可等を前提といたします。

# SBIカード：2006年11月一般募集開始へ

～ 世界最高レベルのシステムに裏打ちされた高機能カードで差別化～

- ・ 国内初のマルチバンクオンライン返済・キャッシング機能
  - ・ 返済・キャッシングがリアルタイムオンライン
  - ・ 複数の銀行口座登録利用可能
  - ・ 24/365、Web,自動音声応答、携帯、オペレーターで対応可能
- ・ 国内初、アジアで5番目のWorld MasterCard
  - ・ MasterCardの最上位カード
- ・ 1枚毎に限度額指定できる家族カード



SBIグループ顧客向け提携カードを順次発行開始



システム  
アウトソーシング



JV



## ◆ スケジュール

|             |                    |
|-------------|--------------------|
| 2006年10月18日 | SBIグループ従業員への限定発行開始 |
| 2006年11月20日 | 一般募集開始（予定）         |

## (4)住宅不動産事業

- ・規模拡大と事業の多様化



# マカオでの不動産事業進出

## SBI MACAU HOLDINGS LIMITEDを通じたマカオでの投資活動

### 良好なマカオの不動産投資環境

- ・ 好アクセス(香港からジェットフェリーで約1時間)
- ・ 中華人民共和国特別行政区としてギャンブルが公認

### 2006年半期 マカオ・ラスベガス比較

|               | マカオ        | ラスベガス      |
|---------------|------------|------------|
| カジノ           | 21軒        | 64軒        |
| テーブルゲーム<br>収入 | 30億9200万ドル | 16億900万ドル  |
| 総ゲーム収入        | 32億6800万ドル | 32億7600万ドル |

マカオ中心街のオフィスビルの2フロアに  
総額12億円相当の物件を購入済み。

この他にもハワイ、グアム等のリゾート物件  
への投資も具体的に進行中。



# SBI不動産ガイドの開始

不動産情報ポータルWebサイトを7月より運営中

「選ぶ」「建てる」「投資する」「売る」「管理する」「調べる」「リフォーム」の  
7つのカテゴリーから、利用者のニーズに応じたサービスを提供

- ・物件情報の提供
- ・商品の提供
- ・サービスの提供
- ・オークション

...等々

不動産  
関連業者

問い合わせ情報  
の提供

## SBI不動産ガイド



- ・物件検索
- ・見積もり依頼
- ・問い合わせ
- ・資料請求

...等々

ユーザー

無料で  
情報公開・提供

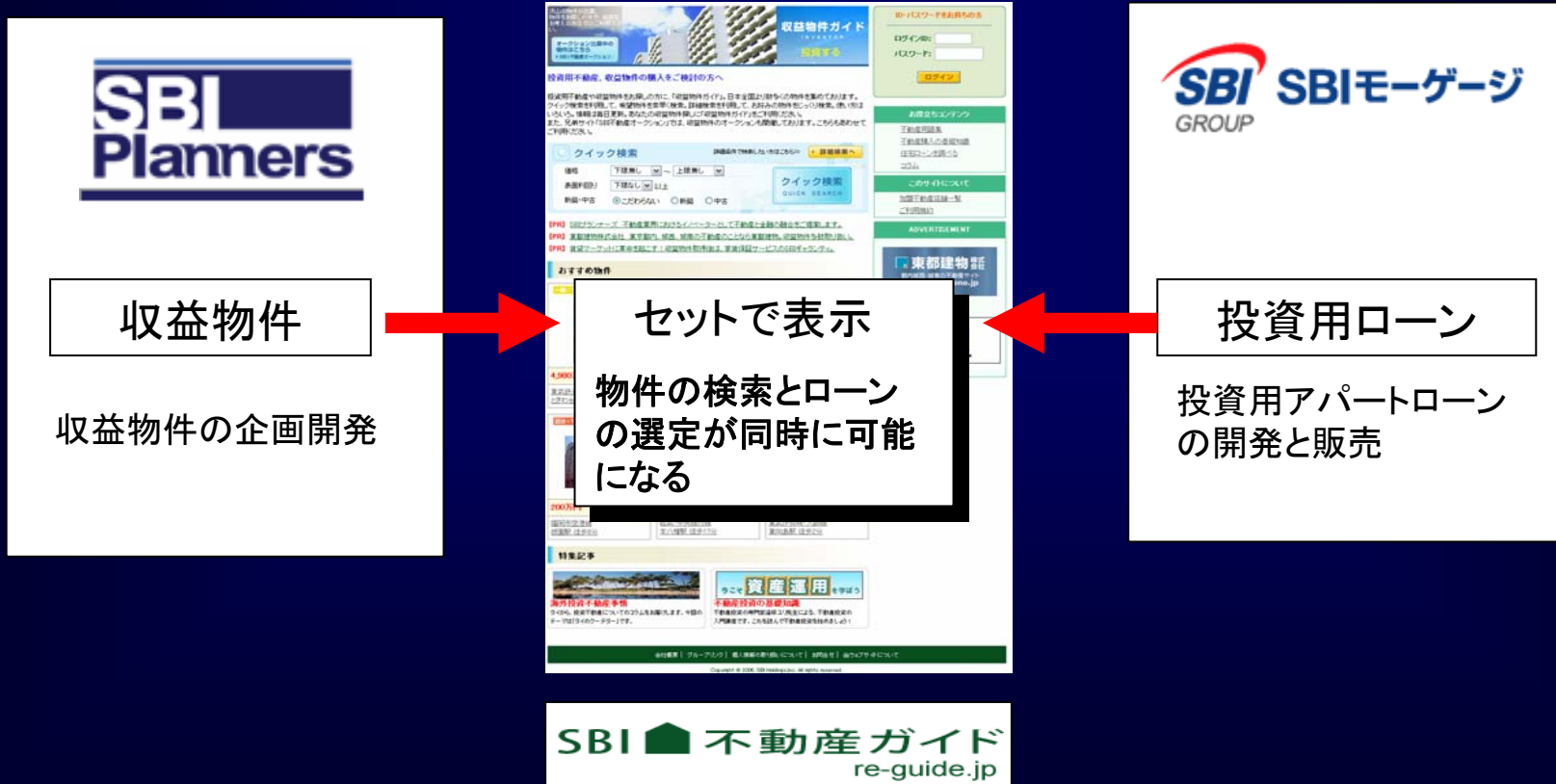
ユーザーと不動産業者間やり取りがスムーズになり、  
ユーザーの利便性が高まる



# SBI不動産ガイドのグループ連携

グループ各社との連携を推進中。シナジーを高めて、利用者の利便性を向上。  
今後、SBIイー・トレード証券、SBIギランティ等との連携も検討。

現在企画進行中の連携例 : (SBIプランナーズ＋SBIモーゲージ)





## (5)生活関連ネットワーク事業

- ・SBIグループ各社サイトと相乗効果の高い  
ネットワーク関連事業インフラの構築

2006年11月1日リニューアル予定

地域・行政サービス情報をベースに、教育、グルメ、医療情報といった地域の生活・施設情報と、出産・育児、住まい探しといったライフイベント情報を提供し、生活者自身がその情報を付加、共有、参加できるコミュニティ型地域・生活情報サイトとして、生まれ変わります。

## 情報データベース

### 地域情報



新しく、地域の周辺施設情報を追加

約**300,000**件

病院(動物、介護などを含む)、教育機関、名所・史跡、ショッピング、グルメといった施設情報と地図表示



### 行政情報



約800市区の行政情報の大幅な拡充

現在約120項目 → 約**180**項目

これまでの公共料金や各種助成金、土地の平均価格といった情報に、行財政、学校給食の有無などを追加

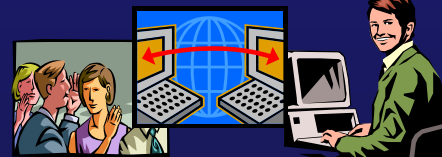
47都道府県  
802市区

地域・エリア  
×  
ライフイベント

出産・育児  
住まい  
セカンドライフ  
旅行  
健康・医療  
趣味  
マネー

## コミュニティ

Q&A掲示板、口コミ、マイページ機能、お友達機能、日記などといった、コミュニティ機能の大幅な強化



地図型情報投稿や利用者による情報の発信、地域情報の追加、修正が可能。

ライフシーンに合った最適な街を探す地域レコメンド機能

SBIグループサイト

不動産ガイド 仲介・比較各サイト 保険関連 証券関連ローン ネット銀行 etc

他社サイト

# ネットワーク価値の創出

## 「家を買いたい」



家を買いたいという意思・要求を持った人に対し、そこから派生するあらゆる情報を提供するネットワークを構築することにより、顧客の購買行動を効率的にサポートする。

# 生活ガイド 機能拡充スケジュール

みんなで作る地域・生活情報サイト  
**生活ガイド.com**

今回のリニューアルで、ライフイベント(出産・子育て等)や日常的なピックス(グルメ、健康、買い物等)といった情報を、ユーザーに身近な地域・ライフイベント単位で整理し提供。2007年春(予定)、地域特産物などの物販を開始予定。また、モバイルサイトを開始し、携帯電話からの口コミ施設検索や情報の書き込みなどを行えるようにし、WEBサイトと連動を予定。

訪問者数

## サイトリニューアル

行政サービス情報の拡充

地域情報  
(施設情報、地図など)

ライフイベント  
(出産・子育て、住まいなど)

生活関連情報  
(食べる、見る、遊ぶなど)

コミュニティー機能  
(ユーザー発信、投票、  
写真投稿など)

## 物販開始

EC機能

各種情報の拡充

コミュニティー機能拡張

## モバイルサイト開始

3キャリア対応携帯サイト

PCとの連動

2006年11月1日(水)  
サイトリニューアル

～2007年春頃(予定)

## (6) グループ内システム開発体制の本格的構築へ

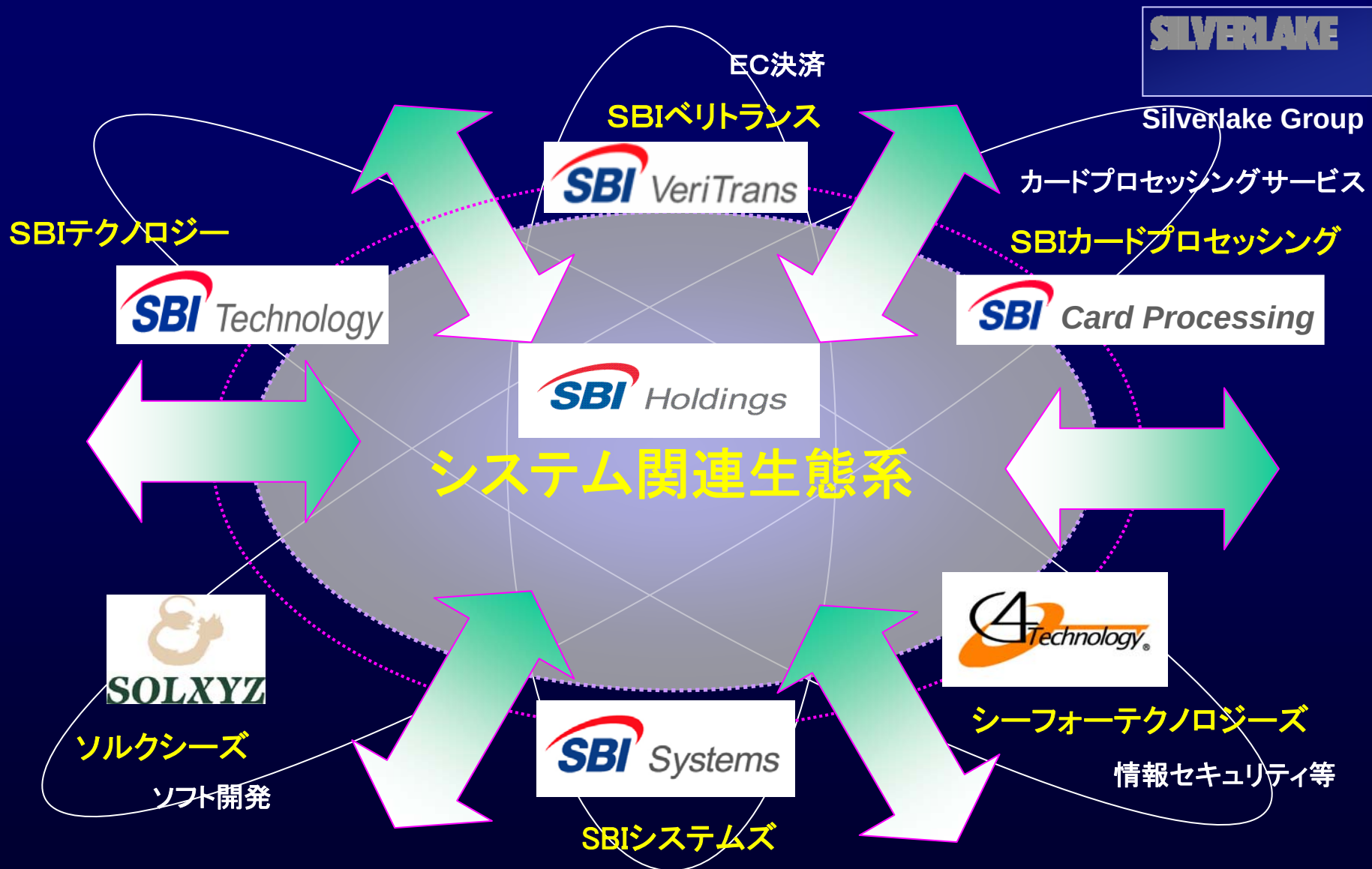
### I. システム面での他社依存をなくす

- ・SBIグループ全体のシステムコストの削減
- ・ネット銀行、ネット損保等大規模なシステム開発案件におけるキャパシティの確保
- ・システム開発スピードの向上による新サービスの早期投入
- ・他社への開発ノウハウ流出可能性を排除

### II. ネットの進化を先取りする

- ・Web2.0への対応
- ・グーグルマネーに表象される新ネット金融への対応

# 今後も生態系飛躍的拡充への提携・M&Aを加速させる



## 4. 株主還元について

# SBIホールディングス 年間配当は前年比倍増へ

2006年3月期の増配(前期比、71%増)に加え、

- ・2007年3月期には中間配当600円を実施
- ・2007年3月期期末配当も600円を実施予定

(1株につき)

|            | 中間          | 期末     |             | 年間            |
|------------|-------------|--------|-------------|---------------|
|            |             | 合併記念配当 | 普通配当        | 1株につき         |
| 2007年3月期予定 | <u>600円</u> | —      | <u>600円</u> | <u>1,200円</u> |
| 2006年3月期実績 | —           | 100円   | 500円        | 600円(50.5%)   |
| 2005年3月期実績 | —           | —      | 350円        | 350円(40.5%)   |

※( )内の数字は単体での配当性向を表す。



# モーニングスター 増額配当の実施予定

特別配当金を含め、前期に比べ2.5倍の増額配当の実施を予定

|       | 2005年12月期 | 2006年12月期     |
|-------|-----------|---------------|
| 普通配当金 | 400円      | 500円 (250円)   |
| 特別配当金 | 0円        | 500円 (250円)   |
| 合計    | 400円      | 1,000円 (500円) |

\*上記配当金は、2007年3月開催予定の第10期定時株主総会で承認されることを条件とする。

\* ( )内の金額は、株式分割後の1株当たりの配当額。

*<http://www.sbigroup.co.jp>*